

イギリス文学・文化論ゼミ
2018年度
海外語学研修・フィールドワーク
報告書



<編者・報告者>

一平みずき・岡あずさ・鈴木秀和

滝澤祐人・伏見美瑛・干野香月

2018年3月31日発行

まえがき

本報告書は、2018年度「イギリス文学・文化論演習」（加藤ゼミ）における、海外語学研修及び海外フィールドワークとその事前・事後学習をまとめたアクティブ・ラーニングの活動記録である。3年生は8月にケンブリッジにあるアングリア・ラスキン大学にて **English Language and Culture** という語学と文化を学ぶサマーコースを2週間受講し、その後ロンドン、エディンバラ、オックスフォードにて9日間のフィールドワークを行った。「演習」とは別の時間に週1コマ、前期期間中に事前学習を行い、訪問先の文化、歴史、及び各自のフィールドワークにおける調査トピックに関する発表とディスカッションを行った。後期は、事後学習として調査トピックに関する追跡調査を文献やインターネットを通じて行い、「フランス文化論演習」（平松ゼミ）との合同発表会において、各自の調査研究に関する発表を行った。そして1年を通じたアクティブ・ラーニングの総括として、春休み中に本報告書を執筆、編集した。

今年度の学生は皆、学習面においては優秀ではあるが、責任感やリーダーシップという点で欠けている。果たしてこの海外文化体験を通じて成長はあったのだろうか。授業で学んだ外国文化の知識もそれを活用して実践できなければ意味がない。机上の学問の域を超え異文化の人々との直接の交流を通じて、学問並びに人間的成長を期待してこの研修を毎年実施している。成果はすぐに現れるものではない。卒業までのあと1年間、成長をしっかりと見届けたい。

(加藤 千博)

<旅程表>

日	月	日	行 程	訪問地	目的	宿泊先
1	8/4	土	成田(17:25)発 → バンコク経由	タイ国際航空		
2	5	日	ロンドン・ヒースロー(7:15)着 → ケンブリッジ	ケンブリッジ	移動、チェックイン	アングリア・ラスキン大学寮
3~7	10	月~金	アングリア・ラスキン大学	大学	サマーコース受講 (語学&文化研究)	アングリア・ラスキン大学寮
8	11	土	自由行動	ケンブリッジ	市内フィールドワーク	アングリア・ラスキン大学寮
9	12	日	スクール・ツアー	オックスフォード	近隣都市訪問	アングリア・ラスキン大学寮
10~14	17	月~金	アングリア・ラスキン大学	大学	サマーコース受講 (語学&文化研究)	アングリア・ラスキン大学寮
15	18	土	ケンブリッジ → ロンドン	ロンドン大学	移動、チェックイン、大学訪問	ロンドン大学寮 (Passfield Hall)
16	19	日	ロンドン市内	グローブ座、ディケンズ博物館、 大英博物館、V&A博物館	演劇・文学・文化	ロンドン大学寮 (Passfield Hall)
17	20	月	ロンドン市内	ナショナルトラスト、ハリボタスタジオ	環境・文化遺産保護	ロンドン大学寮 (Passfield Hall)
18	21	火	ロンドン → エディンバラ	エディンバラ大学、エディンバラ城	移動、チェックイン、大学訪問	エディンバラ大学寮 (Baird House)
19	22	水	エディンバラ	エディンバラ・フェスティバル	歴史・文化・教育	エディンバラ大学寮 (Baird House)
20	23	木	エディンバラ → オックスフォード	スコットランド国立博物館、美術館	歴史・文化、移動、チェックイン	オックスフォード大学寮 (Christ Church)
21	24	金	オックスフォード市内	ブレナム宮殿	歴史・文化・階級社会	オックスフォード大学寮 (Christ Church)
22	25	土	オックスフォード市内	コレッジ巡り	歴史・文化・文学・教育	オックスフォード大学寮 (Christ Church)
23	26	日	オックスフォード → ロンドン・ヒースロー空港 ロンドン(12:30)発 → バンコク経由	タイ国際航空		
24	27	月	→ 成田(15:45)着			

Contents

1 . Preparatory Research	... 1
2 . Anglia Ruskin University 2018 English Language and Culture Course	... 19
3 . Field Work Presentations	... 23
4 . Representation of English Society and Culture on Harry Potter	... 49
5 . The Diary	... 60
6 . Photos	... 67
7 . Reviews	... 71

1. Preparatory Research

Cambridge

- ・ケンブリッジシャーの州都
- ・ケンブリッジ大学がある学園都市
- ・名前の由来は Cam (ケム川) + Bridge (橋)



The University of Cambridge

- ・1209年に創設された大学。
- ・カレッジ制、31のカレッジがある。
- ・90人のノーベル賞受賞者を輩出。
- ・イギリス国内で3番目に広い土地を所有。
- ・学長 アリソン・リチャード。
- ・卒業生にはニュートン、ダーウィン、ホーキング、エディ・レッドメインなどがいる。



History

- ・1209年、オックスフォードでの暴動から逃げてきた学者たちがケンブリッジに住み着き研究活動を始め、大学を創立する。イングランド国王の保護などを受けて発展をはじめ。
- ・1284年、最古の College の Peterhouse が創立。

カレッジの役割（ケンブリッジ大学公式ホームページより）

- Your home in Cambridge
- Educational support
- Entertainment and other facilities

King's College

- 1441年にヘンリ6世によって創設。
- 学部 歴史学、経済学、法学、アジア・中東学 etc.



Library of King's College

- カレッジの創立時と同じ年に完成。
- 130,000冊の蔵書。
- 学生のみ利用可能。（予約を取れば可能、テスト期間は不可）
- Global Warming Collection が有名。

Chapel of King's College

- 1446年にヘンリ6世によって建てられる。
- 後期ゴシックの代表的な建築。
- 9ポンドで入ることができる。



聖歌隊

- ・ 16 人の 9~13 歳の男の子、14 人の学部生で構成。
- ・ 週に 6 日、チャペルで歌う。
- ・ 国内外で多くの活動をしている。



ケンブリッジ大学公式ホームページより

Trinity College

- ・ 1546 年ヘンリ 8 世によって創設。
- ・ キングスホールとマイケルハウスのカレッジと七校のホステルの統合により設立。
- ・ 多くの建造物が 16~17 世紀に完成。



The College Clock

- ・ トリニティカレッジで最も古い建造物のひとつ。
- ・ ビッグベンの構造に倣って作られた、振り子によって動く時計がある。



College Gardens

- 36 エーカーの広さをもつ。(1 エーカー=4047 m²)
- ニュートンのリンゴの木の子孫がある。



Anglia Ruskin University

General Information

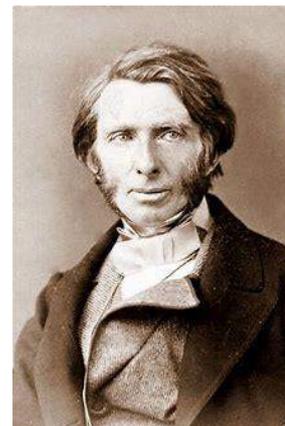
- 1858 年に William John Beamont によって Cambridge School of Art が設立され、現在の Anglia Ruskin University に至る。
- 校名の “Ruskin” は、19 世紀のイギリス人評論家・美術評論家の John Ruskin (1819-1900) に由来する。

Faculties & Departments

- Lord Ashcroft International Business School
- 医学部 (Faculty of Medical Science)
- 理工学部 (Faculty of Science & Technology)
- 人文社会学部 (Faculty of Arts, Law & Social Sciences)
- 社会福祉・教育学部 (Faculty of Health, Social Care & Education)
- 薬学部 (School of Medicine)

John Ruskin (1819-1900)

- ジョン・ラスキンは、19 世紀イギリス・ヴィクトリア時代を代表する評論家・美術評論家である。また、社会思想家としても知られる。
- 画家ターナーとも交友を持ち、『近代画家論』(1843-60) を著した。



London

- ・イングランドの首都で、世界都市として商業、教育、芸術など広範にわたる分野において強い影響力を持つ
- ・様々な時代に建てられた歴史的建築物が立ち並び、同時に再開発などにより近代的なビルも建てられ、その景観は常に変わり続けている。
- ・ローマ帝国によるロンディニウム（集落）の創設が都市ロンドンの起源となっている。

Museum, Library

The British Museum

- ・世界最大規模の博物館。世界中から集められた美術品や書籍、略奪品など約 800 万点以上が収蔵品されている。
- ・収蔵品には考古学的な標本、遺物、硬貨、オルゴール等の工芸品、世界各地の民族誌資料が含まれる。
- ・収蔵品の多くが個人収集家による寄贈という特色を持つ。
- ・著名な収蔵品
 - ・ ロゼッタストーン
 - ・ イースター島の石像、ホア・ハカナナイア
 - ・ アンダーソンの猫
 - ・ パルテノン神殿破風彫刻群



The British Library

- ・ 1973 年に創立された世界最大級の資料数を誇るイギリス国立図書館。
- ・ 約 1 億 5000 万点以上もの資料を所蔵。
- ・ 1972 年の大英図書館法に基づき、1973 年に大英博物館図書館を母体としてロンドンの国立中央図書館などいくつかの既存の国立図書館を統合し設立。
- ・ あらゆる言語書籍を所蔵しているほか、雑誌、新聞、特許、地図、切手、絵画など様々な形態の資料を保存している。
- ・ 年間約 3000 万冊の蔵書資料が追加されている。

Victoria and Albert Museum

- ・ 通常 V&A と略され、デザインと装飾美術品を中心とする美術館。
- ・ 世界各地の陶磁器、家具、衣装類、ガラス細工、宝石、金属細工、写真、彫刻、織物、絵画など、3000 年余りにおよぶ世界文明の遺物が収蔵されている。
- ・ 収蔵品は 230 万点以上、展示品は 4 万点以上にのぼる。
- ・ 1852 年、ロンドン万博の収益や展示品を基に産業博物館として開業。1899 年に現在の名称に改称。

- ・代表的な展示は各時代のファッションを並べたファッション・ギャラリーや、インド、東アジアの美術品が並ぶ東洋コレクションなど。
- ・併設されたカフェの壁や食器にはウィリアム・モリスが考案したデザインが使用され「モリス・ルーム」と呼ばれ、多くの利用客で賑わっている。



Museum of London

- ・先史時代から現代に至るまでのロンドンの歴史を伝える博物館。
- ・収蔵品は 100 万点以上。
- ・ロンドン大火や女性参政権運動など、当時の歴史的転換の様子をジオラマや映像資料等でわかりやすく解説している。
- ・19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて女性参政権運動を支えた Suffragettes (サフラジェット) に関する映像ブースが設置されており、当時の様子から現代に至る活動家まで紹介されている。



Novelists

Charles Dickens (1812-1870)

・ヴィクトリア朝時代を代表する小説家。主に下層階級を主人公とし、

弱者の視点から社会を風刺する作品を書いた。

代表作

- ・ 『オリバー・ツイスト』 (1837-39)
- ・ 『ニコラス・ニクルビー』 (1838-39)
- ・ 『クリスマス・キャロル』 (1843)
- ・ 『デイヴィッド・コパフィールド』 (1849-50)
- ・ 『大いなる遺産』 (1860-61)



The Charles Dickens Museum

- ・ディケンズが 1837～39 年まで居住していた家
- ・『ニコラス・ニクルビー』や『オリバー・ツイスト』などの作品がここで書かれた。
- ・ディケンズ一家が使用したテーブルや食器などがそのまま展示されており、食卓には各椅子に誰が座っていた場所かが示されている。
- ・室内にはヴィクトリア朝時代特有の上品でシックな色味の家具が多く見られる。
- ・最上階の寝室にはディケンズの作品の各場面が壁やベッドのシーツに描かれている。



Arthur Conan Doyle (1859-1930)

- ・イギリスの作家、医師。推理小説、歴史小説、SF小説など多数を著した。
- ・代表作『シャーロック・ホームズ』シリーズは現代ミステリー作品の基礎を築いた。
- ・1902年、Sirの称号を得た。

代表作

シャーロック・ホームズシリーズ

- ・ 『緋色の研究』(1888)
- ・ 『シャーロック・ホームズの冒険』(短編、1892)
- ・ 『バスカヴィル家の犬』(1902)
- ・ 『シャーロック・ホームズの帰還』(1905)



The Sherlock Homes Museum

- ・小説内でシャーロック・ホームズが探偵事務所を構える 221 Baker Street を再現した博物館。
- ・ヴィクトリア朝様式の室内には当時の執事・召使の服装をしたガイドがおり、各部屋の解説をしてくれる。
- ・館内にはホームズやワトソン医師、ハドソン夫人の部屋などが再現されている。バイオリンや医療道具など、各キャラクターを象徴するものも展示され、作品の一場面を蝋人形によって再現しているブースもある。
- ・併設されたおみやげコーナーでチケットを購入後、館内に入場可能。



National Trust

1895年イギリスにおいて設立された、自然環境や歴史環境を保護するために、住民がその土地を買い取るにより、保存していく制度、運動。



Osterley Park & House

- National Trust によって管理運営されており、公園内は入場無料、邸宅内部見学には入場料が必要。
- 公園はロンドン市民の憩いの場となっており、サイクリングやジョギング、ピクニック等をして過ごす人々の姿が見られる。
- エリザベス 1 世の金庫番トマス・グレシャムによって建造され、18 世紀になると銀行家フランシス・チャイルドの手に渡った。
- 建築家ロバート・アダムスが屋敷の改装を手がけ、当時の流行であったギリシャ・古代ローマのモチーフを装飾に取り入れている。
- 草花をモチーフとする真紅のタペストリーのデザインは天井や壁、ソファ等にも使用されている。



World Heritage

Westminster Abbey

- ロンドン・ウェストミンスターにある英国国教会の修道院
- 1066 年のノルマン征服以来、歴代のほとんどの国王の戴冠式が行われ、現在でも王室行事が執り行われている。
- 戴冠式の際、新王が着席する椅子は、修道院をつくったエドワード懺悔王の名前に因んで「エドワードの椅子」と呼ばれる
- 13 世紀、フランスのゴシック様式で改装された為、英仏の様式を織り交ぜた建築となっている。
- 中世以来の国王、政治家、学者や作家などが埋葬されている。著名な埋葬者はアイザック・ニュートンやチャールズ・ダーウィンなど自然科学者、ジェフリー・チョーサーやチャールズ・ディケンズなど詩人・作家、政治家・首相ウィリアム・グラッドストンなど。
- 2018 年 3 月に死去した故スティーブン・ホーキング博士の遺灰も埋葬される。

Dormitory

Passfield Hall

- ・ Bloomsbury に位置し、ロンドン大学を構成する大学の1つ LSE (London School of Economics and Political Science) の学生寮。大英博物館周辺の地域一帯は Bloomsbury と呼ばれ、チャールズ・ディケンズやバーナード・شوなど英国作家が好んで暮らした。
- ・ 建築には 18 世紀に発達した「ジョージアン様式」が取り入れられ、効率的に沢山の人が居住できる、シンプルなデザインとなっている。この様式は英国式集合住宅の基礎として普及した。



Transportation

Tube (Underground)

- ・ 1863 年に開業した世界最古の地下鉄。
- ・ ロンドンの地下鉄は管状のトンネルに由来した Tube (チューブ) の名称で親しまれ、全 11 路線、270 もの駅を持つ。
- ・ 駅は 1 から 9 のゾーンに分かれており、中心部がゾーン 1、中心地から離れるに従って番号が大きくなる。移動区間が同ゾーン内なら料金は同じ。
- ・ Tube を含むバスやタクシーなどロンドンの公共交通機関の支払いには、チャージ式乗車券 Oyster Card (オイスター・カード) が導入されている。
- ・ Oyster Card は自動券売機その他、地下鉄窓口や交通局で入手可能。身分証提示不要でデビットとして 5 ポンド支払う。



Edinburgh

- ・イギリス北部、スコットランドの首都。
- ・ロンドンから電車で約 4 時間半、飛行機で約 1 時間。
- ・温和な西岸海洋性気候で、夏の最高気温は 22°C 前後。
- ・ロンドンに次ぐイギリス第二の経済都市。
- ・イギリス第二の観光都市でもあり、観光客数は年間 100 万人を超える。
- ・スコットランド国立博物館や国立美術館、国立図書館などの国立機関が多数存在。
- ・毎年 8 月に行われる世界最大規模の芸術祭、エディンバラ・フェスティバルが有名。
- ・旧市街・新市街はユネスコ世界遺産に登録されている。
- ・地名は「エドウィンの城」の意味。



Edinburgh Festival

- ・エディンバラで毎年 8 月に行われる芸術祭の総称。
- ・エディンバラ国際フェスティバルとエディンバラ・フェスティバル・FRINGE が中心。



(画像出典：SUITCASE, SHOWS YOU CAN'T MISS AT EDINBURGH FESTIVAL FRINGE 2015)

Edinburgh International Festival

- ・1947 年に「人間精神の開花のための基礎を提供する」ことを理念に掲げ開始。
- ・オペラ・演劇・コンサート・ダンスなど様々なジャンルの公演が行われる。

Edinburgh Festival Fringe

- ・世界最大の芸術祭。
- ・2018 年では 25 日間にわたり、317 ヶ所で 3548 の演目が計 5 万 5 千回以上披露された。
- ・登録料と参加費、場所さえ確保すれば誰でも参加可能。
- ・FRINGE とは「周辺にあるもの」という意味。



- ・1947年、第1回の国際フェスティバルに招待されなかった劇団たちが、自主的に公演を行ったのが始まり。

Edinburgh Castle



- ・キャッスル・ロックという岩山の上に建つ古代からの要塞。
- ・12世紀、デヴィッド1世の統治時代には既に城が存在。
- ・1633年まで王族の住居として使用された。
- ・17世紀には軍隊の兵舎として使用されるようになった。
- ・8月にはエディンバラ・フェスティバルの一環として、ミリタリー・タトゥーと呼ばれる駐留部隊の大規模なパレードが行われる。
- ・日曜以外の毎日13時に大砲を使って空砲が放たれる。

National Museum of Scotland

- ・王立博物館に合併する形で設立。
- ・スコットランド博物館は主に歴史・民族・文化関連物を収蔵。
- ・王立博物館側では化学・テクノロジー関連の展示が行われている。
- ・地下・地上合わせて8階建て。
- ・有名な展示の一つに、世界初の哺乳類の体細胞クローンである羊のドリー（Dolly）の剥製がある。
(画像出典：スコットランド国立博物館ホームページ)



The Elephant House

- ・キャリア初期の J・K・ローリングが『ハリー・ポッター』の執筆時に利用していたカフェの一つとして有名。
- ・ハリー・ポッターファンの聖地として人気に。
- ・カフェ内トイレには壁や室内器具の至るところに、世界各国から訪れたファンの落書きがある。



Cuisine: Haggis

- ・スコットランドの伝統的食文化の一つにハギスがある。
- ・茹でた羊の内臓（肝臓・心臓・肺など）のミンチ、オートミール、玉ねぎ、ハーブやスパイスを刻み、牛脂と共に羊の胃袋に詰めて茹でる、もしくは蒸して作られる。
- ・スコットランドでは一般的な食べ物で、パブやレストランで出されるほか、既製品がスーパーや肉屋で購入可能。
- ・肉の臭みは玉ねぎやハーブによって取られ、コショウを効かせた味。
- ・フライドポテトやマッシュポテト、スクランブルエッグ、グリーンピースなどと一緒に盛り付けられることが多い。
- ・スコッチ・ウイスキーを合わせて食べることも多く、ウイスキーを直接かける食べ方も存在する。
- ・スコットランドの国民的詩人ロバート・バーンズの誕生日を祝うバーンズ・ナイト（毎年1月25日前後）では、彼の詩作『ハギスに捧げる詩』を読み、ハギスとウイスキーを嗜む風習がある。



Oxford

- ・オックスフォードは南イングランドの中央部に位置する都市である。
- ・オックスフォードの名前は 1066 年ノルマン人がここに国境砦を作った頃に、牛 (ox) を曳いたサクソン人の小作人達がテムズ川を渡って (ford) いたことからその名が付けられたとされている。

History

オックスフォードの形成

- ・ 400 年 ローマ帝国の支配下
- ・ 700 年 サクソン人の王女フライズワイドが現在のクライスト・チャーチの位置に修道院を建設
- ・ 912 年 エドワード王エルダーが北のデーンズに対して村を守る
→テムズ川の南に国境砦の建設。
- ・ 1066 年 ノルマン人騎士ロバート・ドイリーがテムズ川の町の西側に城を建て、川に橋をかける
→10 年後、オックスフォードをノルマンの要塞とするため、堀に囲まれた城を築く。

大学都市としての発展

- ・ 1100 年 城内のセント・チャペルの参事会会員達の学績が広く認められ、家での講義が行われる
- ・ 1167 年 英仏間の争いによりパリ大学から除籍されたイングランドの学徒たちがオックスフォードへ移住
- ・ 1200 年 大学組織の誕生
→パリ大学と同様のコースを提供するまでになり、学生の集中する学生都市としての発展を遂げる。
- ・ 1249 年 ユニバーシティ・カレッジ設立→オックスフォード最古の大学の誕生
- ・ 1263 年～68 年 ベイリオル・カレッジ設立
- ・ 1264 年 マートン・カレッジ設立
→校規を初めて定めた大学になる。

Social Problems of Oxford

「聖スコラスティカの日の暴動」

- ・ 1355 年、ある居酒屋で 1 人の学生が主人にワイン差しを投げつけたことがきっかけとなり、住民側はセント・マーチン教会の鐘で、大学側はセント・メアリー教会の鐘で結集し暴動を起こした。
- ・ 結果、6 名の学生が殺され、多くが負傷した。

宗教問題

- ・ 1555 年頃、カトリックが次第に弾圧される。
 - 新教徒エドワード 6 世に倣い、カトリック教徒がメアリー女王治下の動乱の中、聖職者の教育を目的として大学を利用する。
 - 300 人の新教徒が「無慈悲なメアリー」(カトリック教徒)によって火あぶりの刑に遭う。

清教徒革命

- ・ 1641 年、大学は王党派 (チャールズ 1 世) を支援する。
- ・ 1646 年にチャールズ 1 世がオックスフォードで追い詰められる。
 - 扮装して逃走。三年後処刑されるが、大学は責任を負わなかった。

The University of Oxford

- ・ 世界で 3 番目に古い大学
- ・ ハーバード大学、ケンブリッジ大学、スタンフォード大学等と並び、各種の世界大学ランキングで常にトップレベルの優秀な大学として評価されている。
- ・ 具体的には 2016 年、2017 年の世界大学ランキングで世界 1 位の大学に 2 年連続で選ばれている。
- ・ イギリス伝統のカレッジ制を特徴とする大学で、貴族の大学としても有名である。
- ・ 法定納本図書館にも指定されているボドリアン図書館 (Bodleian Library)は大英図書館 (British Library)に次ぐ規模を誇っており、イギリスで出版された書物全てを見ることができる。
- ・ オックスフォード大学には数多くの著名人が卒業している。
 - 例 元英国首相マーガレット・サッチャー (マサヴィル・カレッジ)
 - インドのマハトマ・ガンジー (サマーヴィル・カレッジ)



・ボドリアン図書館



・クライスト・チャーチ（左食堂、右外観）

Christ Church Cathedral

- ・一つの教会が大学の聖堂と司教区全体の母聖堂を兼ねているという、世界でも例を見ないユニークな聖堂である。
- ・オックスフォード大学のクライスト・チャーチは『不思議の国のアリス』（1865）の作者であるルイス・キャロルや『ナルニア国物語』（1950-1956）の作者 C.S.ルイスなどの数多くの有名作家たちを輩出している。



Blenheim Palace

- ・ブレナム宮殿は、1987年に世界遺産に登録されたオックスフォード郊外のウッドストックにある宮殿。
- ・イギリスを代表するバロック様式の宮殿。
- ・スペイン継承戦争の1704年に将軍ジョン・チャーチルが宿敵フランス軍を破った功績を讃えてアン王女から贈呈された。戦場となったブレンハイム（英語名ブレナム）より宮殿の名前が付けられたといわれている。
→その後チャーチル家の居城となり、1873年に首相ウィントン・チャーチルが誕生した
- ・チャーチル首相の生まれた部屋や英国の公爵の華やかな生活ぶりを垣間見ることができ飾られる調度品も豪華で見応えがある。
- ・王族でない者が所有する宮殿は、ブレナム宮殿のみである。
- ・ヨーロッパ中世に作られた宮殿の中でも3本の指に入るほど壮麗といわれている。
- ・庭園は庭師ヘンリー・ワイズによって17年の歳月をかけて造られ、18世紀に入って偉大な造園家ケイパビリティ・ブラウンによって新しく風景式庭園に造りかえられた
→2000エーカーの広大な庭園はイギリスで最大級の大きさを誇っている。



・外観（左：正面、右：裏）



・内装



・イタリアン・ガーデン



・プレジャー・ガーデン



・ローズ・ガーデン



・ヴァンプラの大橋

2. Anglia Ruskin University 2018

English Language and Culture Course



授業形式

クラス

- ・ 2つのクラスに分かれて授業が行われた。
(ゼミ生 3人 + 中国人 8人 = 11人のクラス、ゼミ生 3人 + 中国人 7人 + 個人参加の日本人 1人 + 個人参加のノルウェー人 1人 = 12人のクラス)

担当教員

- ・ 3人の先生 (Naz, Alice, Annie)が交代で授業を行ってくれた。
- ・ どの先生も、ゲームや映像を使った授業が多くあり、生徒を楽しませるのが上手だった。
- ・ 先生と生徒の距離が近く、生徒が授業に積極的に参加しやすい雰囲気が作られていた。

授業

- ・ 9:00~12:00 (途中休憩 20分あり)
- ・ 基礎知識を学んだあと、グループディスカッションなどのグループワークを行うことが多かった。
- ・ 午後はイギリスの文化やケンブリッジを知るためのアクティビティが用意されていることもあった。
- ・ 宿題を出されることはほとんどなかった。

授業内容

トピックの例

British holidays and celebrations

- ・イギリス特有の祝日であるバンク・ホリデーやガイ・フォークス・ナイト、聖パトリックの祝日などを学んだ。

Exploring British Culture

- ・イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドのそれぞれの文化や観光地などを学んだ。

British Literature

- ・ルイス・キャロルの『ジャバウォックの詩』や『不思議の国のアリス』を通して、彼の作品の特徴である言葉遊びなどについて学んだ。

The UK education

- ・イギリスの進学の方法などの教育システムやそれについて学生はどう思っているか、また実際の大学生活について学んだ。

Harry Potter

- ・リクエストをして、このテーマで授業をしてもらった。
- ・ファンタジー小説であるハリー・ポッターに隠されている、社会問題や文化的側面について学んだ。

Films

- ・『高慢と偏見』や『眺めのいい部屋』、『炎のランナー』などの実際の映像を見ながら、イギリスの映画について学んだ。

Heritage

- ・ストーンヘンジが例として取り上げられ、その歴史や現在どう扱われているかについて学んだ。

アクティビティ

Cream Tea

- ・みんなでタクシーに乗り、イギリスの伝統的な Cream Tea を堪能しに行った。Cream Tea とは紅茶とスコーンの組み合わせのことであり、フルサイズのアフタヌーンティーよりも手軽に楽しめる。いちごジャムとクロテッドクリームをつけたスコーンは紅茶と相性抜群で、絶品だった。



Punting

- ・ケンブリッジを流れるケム川をボートに乗って満喫した。パントは昔商業で用いられていたが、今では観光として大人気のアクティビティとなっている。ボートからしか見られない景色も多く、とても楽しい時間を過ごすことができた。



London

- ・みんなでバスに乗り、ロンドンに行った。到着後は自由時間だったため、地下鉄で移動して、V&A や大英博物館を訪れた。ちなみに楽しみにしていたビッグベンは残念ながら工事中だった。



Oxford

- ・休日にはバスに乗って、オックスフォードを訪れた。アシュモレアン博物館に行き、様々なものを鑑賞した。その後はアウトレットモールにバスで移動し、各自ショッピングを楽しんだ。



異文化交流

アングリシア・ラスキン大学では、イギリス人の学生と知り合う機会はなかったが、一緒にサマーコースを受講した中国人の学生と仲良くなることができた。出会った初日は、お互いに何を話せばいいのかわからず戸惑っていたが、徐々に日本のアニメや歌の話題を通して仲を深めることができた。ある夜には、中国人の学生が私たちをディナーに招待してくれた。一緒に中華包丁を使って料理をしたり、待っている時間にゲームをしたりと、お互いの文化を紹介し合うような貴重な時間を過ごすことができた。これをきっかけに今まで私たちが持っていた固定概念が取り払われたが、それと同時に自分たちの文化や生活を英語で説明する難しさや日本人なのに日本について知らないことがたくさんあるということを痛感した。

また、寮生活を通して多くの異文化を知ることができた。食文化という大きな違いから、洗濯機やレンジの使い方などの細かい違いまで、寮で自分たちだけで生活しているからこそ直面する様々な困難を経験した。しかしこのような文化、生活の違いを経験できたことで、イギリスに対しての理解が深まり、また日本がどういう国なのかをイギリスと比較して考えることができた。

アングリシア・ラスキン大学で学んだこと

アングリシア・ラスキン大学では、今まで知らなかったイギリス文化を多く学ぶことができた。特に祝日などのイギリス人の生活に関するトピックは、日本では学ばなかったものだろう。イギリスでただ生活を体験するだけでなく、このように知識として学んだことで、その後のイギリスでの滞在をより有意義なものにすることができた。

また、知っている文化や文学でもイギリス人の視点から学ぶことができたので、それぞれのテーマについてより理解を深めることができた。私たち日本人からみたイギリス文化と、イギリス人からみたイギリス文化には少しずつ違いがあったため、同じテーマを学んでいても、新鮮な気持ちで授業を受けることができた。また、その違いから考え方や価値観の違いを知ることができ、とても興味深かった。

今回受講したサマーコースでの反省点は、ほとんど自分たちから授業のトピックをリクエストしなかったことである。もっと積極的に自分たちが学びたいトピックを先生に提示していれば、よりアングリシア・ラスキン大学での学びを充実したものにできたかもしれない。しかし、積極性が足りていないと認識することができたことも含め、私たちにとってアングリシア・ラスキン大学でサマーコースを受講したことは、たくさんのことを学べたとても貴重な経験となった。

3. Field Work Presentations

フィールドワーク概要

目的

- ・それぞれの研究テーマについて、イギリスでしか得られない情報やデータを得ることを目的として、各自インタビュー調査や芸術鑑賞、施設訪問などを行った。

一日の流れ

- ・朝：朝食時にミーティングを行う。そこでその日の目標を決めることで、一日をただ単に過ごすのではなく、目的を持って能動的に行動することができた。
- ・日中：それぞれの方法で調査を行う。
- ・夜：全員が帰ってきたらミーティングを行う。その日の研究成果を報告し合うことで、何を得られたのか整理できるだけでなく、次の目標が明らかとなり、よりよい研究につなげることができた。

日程

日にち	時間	場所	一平 みずき	岡 あずさ	鈴木 秀和	滝沢 祐人	伏見 美瑛	干野 香月
8月18日	午前	移動(タクシー)	移動	移動	移動	移動	移動	移動
	午後	ロンドン	大英博物館 オペラ座の怪人	大英博物館	大英博物館	大英博物館	ベイクーストリート ディケンズ博物館 オペラ座の怪人	ベイクーストリート ディケンズ博物館
8月19日	午前	ロンドン		プロムス	プロムス		プロムス	
	午後	ロンドン		大英図書館	大英図書館		大英図書館	
8月20日	午前	ロンドン	V & A 博物館	本屋めぐり	ナショナルトラスト インタビュー	V & A博物館	本屋めぐり	ナショナルトラスト
	午後	ロンドン	ハリーポッター	ハリーポッター	ハリーポッター	ハリーポッター	ハリーポッター	ハリーポッター
8月21日	午前	移動(鉄道)	移動	移動	移動	移動	移動	移動
	午後	エジンバラ	エジンバラ城	エジンバラ城	エジンバラ城	エジンバラ城	エジンバラ城	エジンバラ城
8月22日	午前	エジンバラ						
	午後	エジンバラ	フェスティバル インタビュー	フェスティバル インタビュー	フェスティバル インタビュー	フェスティバル インタビュー	フェスティバル インタビュー	フェスティバル インタビュー
8月23日	午前	エジンバラ	博物館・美術館	博物館・美術館	博物館・美術館	博物館・美術館	博物館・美術館	博物館・美術館
	午後	エジンバラ 移動(鉄道)	移動	移動	移動	移動	移動	移動
8月24日	午前	オックスフォード						
	午後	オックスフォード	ブレナム宮殿	ブレナム宮殿	ブレナム宮殿	ブレナム宮殿	ブレナム宮殿	ブレナム宮殿
8月25日	午前	オックスフォード						
	午後	オックスフォード	自由行動	自由行動	自由行動	自由行動	自由行動	自由行動
8月26日	午前	移動(鉄道)	移動	移動	移動	移動	移動	移動

1. 一平みずき

**女性の自立と
ファッションの変化**

イギリス文学・文化論ゼミ
160058 一平みずき

女性の地位の変化が大きかったビクトリア時代から 20 世紀半ばまでの女性の地位とファッションの変化について研究した。

研究内容

テーマ：女性の自立とファッションの変化

☆社会が文化に与える影響
☆文化が社会に与える影響

・日本のジェンダー平等への糸口
(日本110位、イギリス15位)

目的は

- ① 社会と文化の関係性を探ること
- ② 日本のジェンダー平等への糸口を探ること

研究方法

- ・博物館での研究：ロンドン・エディンバラ
- ・インタビュー：ケンブリッジ・エディンバラ・オックスフォード

博物館でのファッションの研究とインタビュー調査を行った。

MUSEUM OF LONDON

展示：Votes for Women

- ・ Suffragettes(サフラジェット)と呼ばれる女性グループの活動
- ・ ハンガーストライキなど過激な一面も



現在の女性の地位が確立されるまでには「サフラジェット」と呼ばれる女性たちの激しい戦いがあった。

彼女たちの活動により女性にも参政権が認められた。

V&A

展示：ファッションの移り変わり

- 1830—大きいスカート、袖、細いウエスト
- 1850—技術発展よりさらにスカートが大きくなる
- 1920—シンプル、ゆったりとしたドレス
- 1925—スポーツやレジャーのためにお洒落する自由
- —1940男性のようなファッション（スーツ）
- 戦後—よりカラフルで自由に
- 靴のヒールは次第に高くなっていった

1850年頃まではコルセットでウエストを細くし、大きなスカートのドレスを着ることが一般的であった。その後、段々とゆったりとしたドレスに変化していき、動きやすい服装になる。

インタビュー

- 45人（男性 21人 女性 24人）
- ケンブリッジ、エディンバラ、オックスフォードにある公園や道端で実施
- 年齢は30代から70代（見た目年齢）

男性 21人、女性 24人の計 45人にインタビューを行った。
年齢は見た目年齢だが、50代が多かった。

インタビュー：質問内容

ジェンダーについて

- 男女の格差を感じることもあるか
- イギリスの男女平等は進んでいると思うか
- 家庭での男性、女性の役割とは

ファッションについて

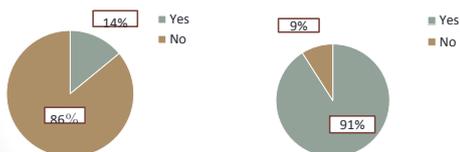
- 昔のファッションをみてどう思うか
- 実際に着て生活したいか
- ファッションとジェンダーが関係していると思うか

ジェンダーとファッションについて、それぞれ3つずつ質問をした。

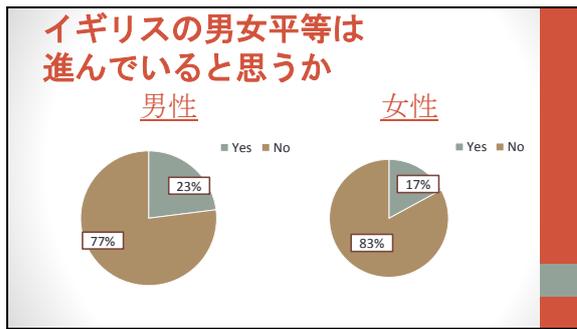
男女の格差を感じることもあるか

男性

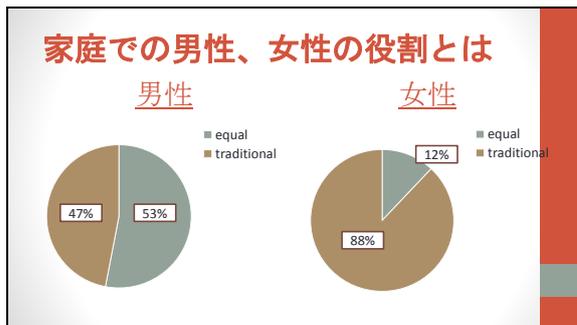
女性



「男女の格差を感じることもあるか」という質問には男性は No が、女性は Yes が圧倒的に多かった。
→男女の格差はまだ存在していることが明らかとなった。



「イギリスの男女平等は進んでいると思うか」という質問には男女ともに No が多かった。しかし昔よりは良くなったという意見が多かった。

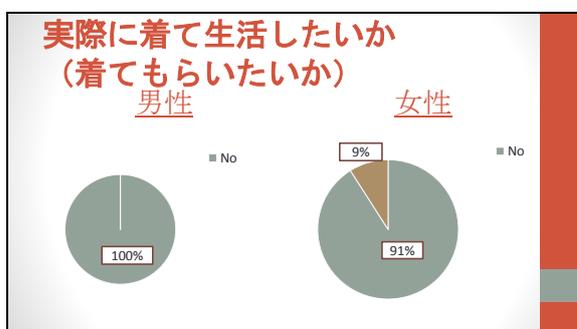


「家庭での男性、女性の役割とは」という質問には、男性は Traditional と Equal が半数ずつだったのに対し、女性は Traditional が約 90% だった。

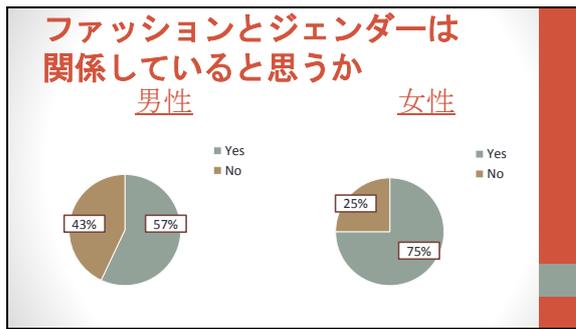
(Traditional=男性が働き、女性が家事をする)



「昔のファッションについてどう思うか」の質問には、男性と比較すると女性に機能性を気にする声が多かった。



「実際に着て生活したいか (着てもらいたい)」という質問には、男女ともに No が大多数であった。



「ファッションとジェンダーは関係していると思うか」という質問には、男性はだいたい半数ずつだったのに対し、女性は Yes が 75% だった。具体的な例としては、スカートが挙げられていた。

まとめ

博物館より

- 今の女性の地位が確立されたのは、激しい女性たちの戦いがあったから
- ファッションは常に変化しており、それはドレスだけでなく、靴にも表れている

インタビューより

- イギリスの社会ではまだ女性はジェンダーにおける不平等さを感じているが、男女ともその問題に関する意識は高い
- 昔のファッションに対しては女性の方が不便さを気にする声が多く、これがジェンダーと関係していると考えている

博物館の研究より、ファッションは常に変化していたこと、そしてインタビュー調査より、イギリス社会では男女の不平等がまだあるものの、男女ともにその問題に対する意識が高いことがわかった。

考察①

- ファッションはその時の女性をよく映し出している
 - ファッションはわかりやすい意思の示し方
 - ファッションの変化と女性のジェンダーに対する意識の変化は対応していると言えるのではないか
- ジェンダーの格差は今でも残っている
 - 国として全体的な水準が高いとしても、個人個人では未だ格差を感じている
 - しかし男女ともにジェンダーに関する問題意識をしっかりと持っているため、解決には近づいているのではないか

調査より、ファッションの変化は女性の平等に対する意識の変化を映し出している、そして男女格差はあるが、問題意識が高いため、着実に解決に近づいていると考察した。

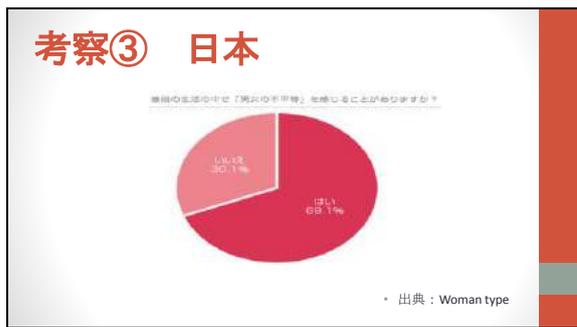
(考察①)

考察②

☆社会が文化に与える影響
☆文化が社会に与える影響

- 様々な社会の要因、文化が複雑に影響し合って、社会、文化がつくられているのではないか
 - ファッションとジェンダーのつながりもその一部

文化と社会はお互いに複雑に影響し合いつくられていて、ファッションとジェンダーもその一部であると考察した。(考察②)



ある企業が女性に対して行った「普段の生活の中で男女の不平等を感じるかどうか」という質問には、いいえと答えた人が30%いた。→問題意識を持っていない人が多いのではないか。（考察③）

考察④ ファッション

Ex.) 制服

- 日本では男子はズボン、女子はスカートが一般的
- イギリスでは男女ともにズボンスタイルにする学校も
→「平等」への配慮、教育

出典：priory school Lewes

イギリスでは制服を男女ともにパンツスタイルにする学校もある。→トランスジェンダーも含めた「平等」に配慮し、教育を行っている。（考察④）

日本でもこのような教育が平等への糸口となるかもしれない。

参考文献

- World economic forum, The Global Gender Gap Report 2018, 最終閲覧2019年1月13日.
http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf
- Woman Type, 『日本の働く女性の7割が「男女の不平等」を実感！世界の男女格差ランキングも下位レベル』, 最終閲覧2019年1月13日.
<https://woman-type.jp/wt/feature/2111>
- Priory School Lewes, uniform, 最終閲覧2019年1月13日.
<http://www.priorye-sussex.sch.uk/396/uniform>

2. 岡あずさ



研究テーマ

- ▶ ①村上春樹
- ▶ ②英語教育

イギリス文学の影響を受けている作家、村上春樹と移民の増加によって日本よりも進歩的であるイギリスの英語教育をテーマに設定した。

村上春樹

- ▶ 村上春樹とイギリス文学の関係
- ▶ イギリス人からの村上作品の評価

村上春樹についてはこの二つについて研究した。

研究結果

- ▶ 『アンダーグラウンド』、『ノルウェイの森』、『ねじまき鳥クロニクル』、『走ることについて語るときに僕の語ること』
- ▶ 知名度はあまり高くない
- ▶ 人気はカズオイシグロと同じ、または高い

インタビューをした結果、何人か読んだことのある人に出会えたが、知名度は高くないことが分かった。しかし、ノーベル賞作家、カズオイシグロよりも人気は高いように感じた。

村上春樹を知らない人に聞いてみた日本の文学作品 (or文化)

- ▶ 『吾輩は猫である』
- ▶ 『バトル・ロワイアル』
- ▶ 吉本ばなな
- ▶ 紫式部
- ▶ 清少納言

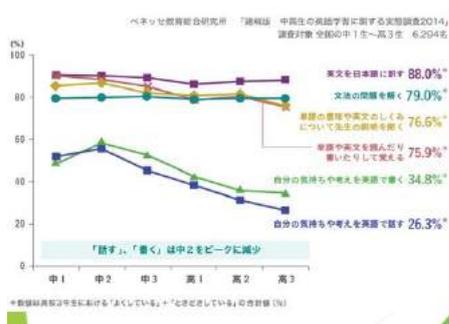
- ▶ マンガ、葛飾北斎、楽器（尺八、太鼓）、『七人の侍』

日本文化について聞いたところ、ほとんどの人が何かしら答えてくれた。イギリスにはない日本独自の文化が知れて面白いといていた。

英語教育

- ▶ 自分たちが受けている、受けてきた英語教育
- ▶ これから日本でされる英語教育
- ▶ ARUの非英語話者への英語教育

英語教育についてはこの三つについて研究した。



このグラフは現在の日本の英語教育における四技能のバランスである。2020年の教育改革によってこのバランスは改善される予定である。

研究方法

- ▶ ARUの先生にインタビュー
- ▶ 日本の授業との比較

研究方法はこの二つである。

インタビュー

- ▶ Q1, 非英語話者に英語を教えるうえで最も重要なことは？
→違うバックグラウンドを持った学習者それぞれに違う
教え方をする
リラックスした環境づくり
少人数授業

日本の授業ではなかなか実現されない英語教育において重視されていることの回答が得られた。

- ▶ Q2, 日本人のTOEFL, IELTSの平均スコアが低い理由は？
→英語を使う機会が少ないこと
文法に焦点を当てすぎること

スコアは取れるのに英語でコミュニケーションができない人が多いイメージ

英語の試験とコミュニケーション力が比例していない印象がある、という回答が印象的であった。

- ▶ Q3, 日本人が英語を使うことにおいて足りないことは？
→スピーキング力
発音
自信

- ▶ Q4, 4技能の中で最も必要な能力は？
→全部
スピーキング

日本人に足りない能力、必要な能力は予想通りスピーキング力という回答が多かった。

- ▶ Q5, 非英語話者に英語を教えるうえで難しいことは
→関心、興味の違いによつての授業プランをたてること
英語を話すことに対する抵抗をなくすこと
自分の話す言葉ではなく英語で考えさせること
英語以外では存在しない単語を説明すること

日本の英語教育と共通する課題がイギリスでもあることが分かった。

- ▶ Q6, ARUの授業の特徴は？
 - 生徒にフォーカスを当てること
 - コミュニケーション重視（グループ、ペアワーク）
 - 自律性
 - アカデミックな内容

ARU での授業の特徴は日本の英語教育にも取り入れるべきものである。

日本の授業との比較

- ▶ ARU→Content and Language Integrated Learning (CLIL)
 - 「内容言語統合型学習」
 - レクチャー+グループワークなどのアウトプット
- ▶ 日本→語学学習中心
 - 学習者中心で、学習者が自律性を持つ授業

日本の教育の方が学習者中心であるべきなのに ARU の CLILの方が学習者中心の授業であると感じた。

日本の授業の問題点

- ▶ 4技能バランスの欠如
- ▶ コミュニケーションの機会が少ない
- ▶ ネイティブスピーカーによる授業が少ない
- ▶ クラスの人数が多い

インタビューや授業比較によって見えてきた日本の英語教育の問題点はこの四つである。

CLILは取り入れられるべきか？

- ▶ 日本の小学生を対象にした実験ではあまり良い結果は得られなかった。
- ▶ ある程度の英語力がないと授業内容を理解できない。
- ▶ 同レベル、同じ関心事を持った人で構成されるクラスでない授業のコンテンツ決定が難しい。

→ある程度の英語力を持つ人を対象とし、少人数のクラスで行えば有効
小中高での導入は難しいのではないか

日本で CLIL を取り入れるのは難しい。ある程度の英語力のある大学や、英語教育のレベルが上がった将来には取り入れることを検討してもいいのではないか。

3. 鈴木秀和



「イギリス式風景庭園に見る自然観と庭園観」と題して、イギリス海外フィールドワークでのイギリス式風景庭園の実地調査を中心に、中国・フランス・日本の事後研究を踏まえて研究発表とした。

1. はじめに 海外フィールドワーク調査計画

卒業論文作成に向けた長期研究課題
『イギリス式風景庭園及び中国古典庭園にみる東西文化交流』

東洋と西洋の庭園文化交流の一端として、「イギリス式風景庭園と中国古典庭園の交流」を例に、その造園などの東西文化交流の背景を探る。

→「イギリス式風景庭園」「中国古典庭園」とは、そもそもどのような特徴があるのか
実際にイギリス・中国に行き、フィールドワークを通して双方の特徴を掴むことが必要

イギリス：オックスフォード・ブレナム宮殿 中国：北京・頤和園

特に「庭園を眺める時の視線」に注目

比較対象として、日本とフランスの代表的な庭園についても研究

Hirokazu Suzuki
Landscape Garden Presentation 2

卒業論文作成に向けた長期的な研究目標として「イギリス式風景庭園及び中国古典庭園にみる東西文化交流」を掲げているため、今回のフィールドワークでは、実際にイギリス式風景庭園の特徴を掴むことを目的とした。

2. 現地インタビュー調査結果

・ ケンブリッジ、ロンドン、エディンバラ、オックスフォードの4都市の公園・植物園等でインタビュー調査を実施

・ 目的：近年のイギリス人の自然環境や造園文化に対する興味・関心を知るため

Q1. Do you like visiting/seeing gardens?

年代	性別	Yes	No
30代	男性	1	0
30代	女性	5	0
40代	男性	10	0
40代	女性	5	0
50代	男性	11	0
50代	女性	4	0
60代	男性	10	0
60代	女性	3	0
70代	男性	1	0
70代	女性	1	0

30代・40代と、50代・60代で造園や自然に対する興味・関心度に大きな隔りがあることが分かる。

忙しくて行く時間が少ない
30代男性 (CAM, Office worker, No.2)

Hirokazu Suzuki
Landscape Garden Presentation 4

現地でのインタビュー調査では、ロンドン、エディンバラ、オックスフォードの4都市でのべ94人のイギリス人にインタビュー調査を行い、年代によって自然観が変化してきていることが判明した。

3-1. ブレナム宮殿の風景庭園

・ Capability Brownが18世紀に現存する風景庭園を宮殿前に造る。

「自然の景観」を高所の景観とし、目を抑え止め、人工の湖を造り、芝や木を計画的に植えるなどして広大な人工の風景庭園を造った。

自然は形の大さな湖と、滑らかに起伏する牧草地の風景が特徴的。聖堂の地盤面とそこからとどろめられた位置にある湖との高低差や、湖岸や土手の大きな滑面などが築かれた優美さを表す。

Hirokazu Suzuki
Landscape Garden Presentation 5

オックスフォードにあるブレナム宮殿の宮殿前に広がるイギリス式風景庭園は、ケイパビリティ・ブラウンによる代表作の一つにもなっており、人工の美しい風景を再現している。



プレナム宮殿の地図を見ると、その構成には中心に「軸」が存在することがわかり、人工的に造られた庭園であることがわかる。

また、視線は湖畔から中央の宮殿建物に注がれる。



視線が湖畔から中央の家屋に注がれることは、過去に描かれた数多くの絵画などの芸術作品から見てとれる



イギリスには、風景庭園以外にもフランス式やイタリア式の整形庭園もある。



フランス式整形庭園との比較には、その代表例であるヴェルサイユ宮殿を引用した。

この庭園は絶対王政時にルイ 14 世が造園させた広大な庭園である。

4-1. フランス式整形庭園との検討比較

・ フランス(イギリス)・ヴェルサイユ宮殿の整形庭園



軸を中心としてほぼ左右対称の作りがとられ、ルイ 14 世自らが著した『庭園鑑賞の手引き』からは庭園中央部から外部を見渡すような視線について明記されている。

4-2. 中国古典庭園との検討比較

・ 北京・頤和園の庭園 (2018年9月19日 中文ゼミフィールドワークにて訪問)

頤和園の庭園は、清朝自派年をかけた中国皇帝造園の最後をしめくくるもの。その景観構成は、中国南方(江南)の自然風景、人文景観及び名所、名園等、特に杭州西湖の山水を学んだ、人工と自然の巧みな組み合わせを顕し、理想とされる「仙土・桃源郷」を現実化したような庭園

乾隆皇帝の漢詩「西水而水地、明湖傲新西、琳瑯三竺宇、煙柳六楊堤」
→遊覧目的の敷地選定、湖の造成、建物の配置及び景観構成の要素などが具体的に杭州西湖を学んだものである。

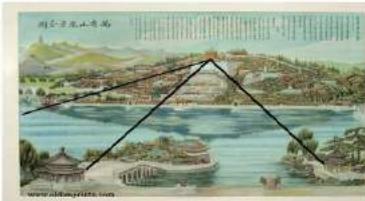


中国古典庭園の例として挙げたのは、中国文化ゼミの海外フィールドワークで北京を訪問した際に見学した頤和園である。

実際の景勝地に似た風景、中国古来の思想に基づいた風景を造園によって再現している。

4-2. 中国古典庭園との検討比較

・ 北京・頤和園の庭園 (2018年9月19日 中文ゼミフィールドワークにて訪問)



視線は庭園の外縁部(湖岸)から対岸にある山や塔などの建築物に注がれる。
山や広大な湖などは、すべて人工で造られる。

中央に大きな湖があり、その湖畔から北側にある大きな山とその中腹にある宮殿を眺めるような視線となっている。
また、中心軸はない。

5. まとめ ～イギリス式風景庭園とは～

4か国庭園の比較

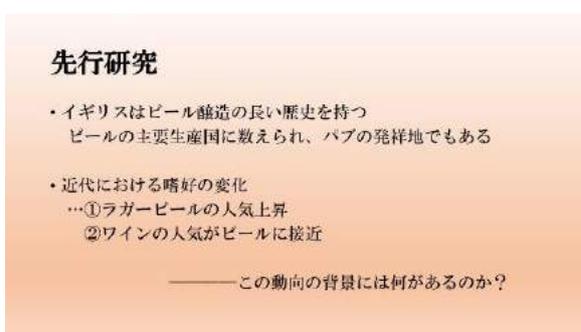
	イギリス式 風景庭園	フランス式 整形庭園	中国 古典庭園	日本式 回遊庭園
時代	18C	17C～18C	15C～18C	15C～17C
線	曲線	直線	曲線	曲線
重要点	・ 絵画的・芸術的な美しさと、自然らしさの調和。風景画的芸術性を重視。 ・ 人工的につくられた庭園	・ 均整さ・幾何学的な美しさを重視。 ・ 人工的に造られた庭園	・ 理想的な風景(山土)に近づけること ・ や、伝統的な造園観・風景画(水墨画)的芸術性を重視。 ・ 人工的に造られた庭園	・ 実在する各地の景勝を再現。 ・ 「借景」という技法を用いて外接することもある。 ・ 人工的に造られた庭園
建築物の位置	中心	中心	外縁	外縁
中心軸	あり	あり	なし	なし
視線	外縁(湖畔)から庭園内部の自然・建築物へ	庭園内中心軸上の点から外部へ	外縁(湖畔)から庭園内部の自然・建築物へ	外縁(湖畔)から庭園内部/や外部の自然・建築物へ

まとめとして以上の特徴をまとめると左のような表となり、イギリス式風景庭園にはフランス式整形庭園の特徴と中国古典庭園の特徴を合わせ持っていることが想定される。

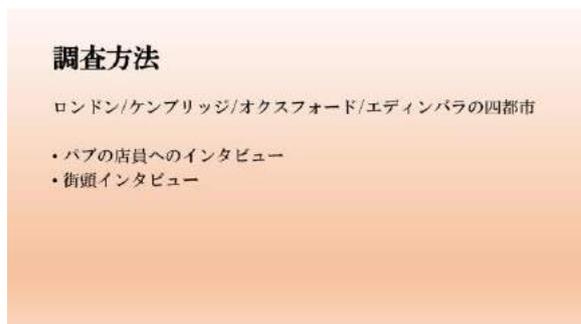
4. 滝澤祐人



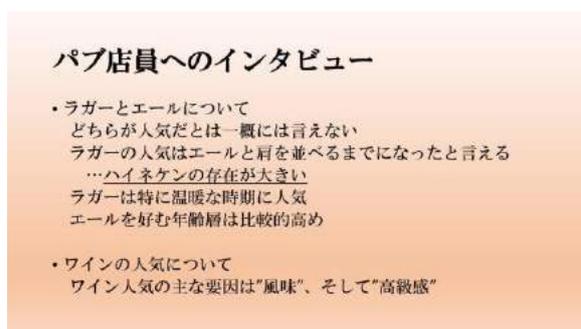
イギリス人がどのような種類の酒を好み、消費しているのかを今回のFWで調査した。



もともとイギリスはビール醸造の歴史が長く、世界有数のビールの主要生産国となっている。ビールを語るうえで外せないパブ文化の発祥地でもある。近代、イギリスにおける伝統的なエールビールに対するラガービールの人気上昇、およびワインの人気上昇が起こっている。



今回、FW中に訪れたロンドン、ケンブリッジ、オクスフォード、エディンバラの四都市で、パブ店員へのインタビューおよび街頭でのインタビューを行った。



パブ店員へのインタビューで確認できたのは、ラガーの人気がエールに匹敵するほどになったということと、ハイネケンの登場がこれに大きく影響しているということだった。ワインについては風味・高級感が人気の要因だという。

街頭インタビュー

- ・よく飲む酒・最も好きな酒の種類をそれぞれ聞いた
共に多く得られた答えはエール、ラガー、ワインの三つ
 - ・選んだ理由についての回答は「味」「香り」など単純
 - ・特にエールは風味の多様さが人気の大きな一因
 - ・ワインは若年層や女性からの支持が大きい
-
- ・酒の価格と嗜好の関係について意見は得られず
 - ・「人と飲むのが好き」「飲酒は社交手段の一つ」という意見も

街頭でのインタビューでは、普段よく飲む酒・最も好きな酒の種類をそれぞれ聞いた。得られた答えはエール、ラガー、ワインの三つが主だった。ワインの若年層や女性における人気を感じられた。

その他、フィールドワークでの発見

- ・パブ内でタバコを吸う人を見なかった
(帰国後調査)
2007年から禁煙法で公共の屋内空間は全面禁煙に
パブの場合、喫煙できるのはテラス席など屋外のみ
- ・女性客が少ない印象
パブは女性だけだと入りづらい場所なのかもしれない

その他、FW での特記すべき発見として、パブ内で喫煙者を見なかったこと、女性客が少ない印象を受けたことが挙げられる。イギリスでは 2007 年以降、公共の屋内空間は全面禁煙とする禁煙法が定められていることを帰国後の調査で知った。

考察① 伝統からの離反

- ・他の外食産業や小売店の人気、禁煙法、景気の後退、酒税額の増加、ムスリムの増加など
…「パブ離れ」、相次ぐパブの閉店
—パブ/ビールを選択する人が減少？

c.f. CAMRA による伝統的なエールやパブ保護の動き

イギリス人の飲酒嗜好は伝統的なものから離れてきているのではないかと考察した。要因として、人々のパブ離れやパブの閉店が挙げられる。

考察② 女性とワイン

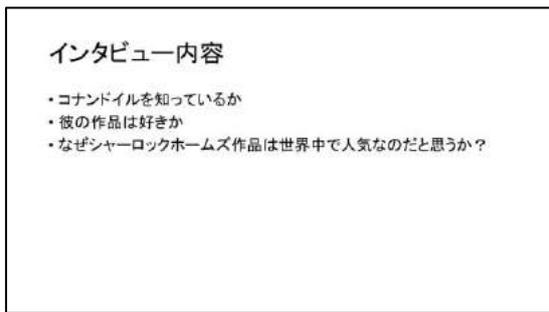
- ・女性はビールよりワインを好む (図参照)
- ・元来、パブは男性労働者の文化だった
—パブ/ビール/パイント・グラスは男性的？
—パブに女性が少ない/ビールが好まれない要因？

帰国後さらに研究すると、ワインの人気について、男性よりも女性にワインを好む人が実際に多いことが分かった。

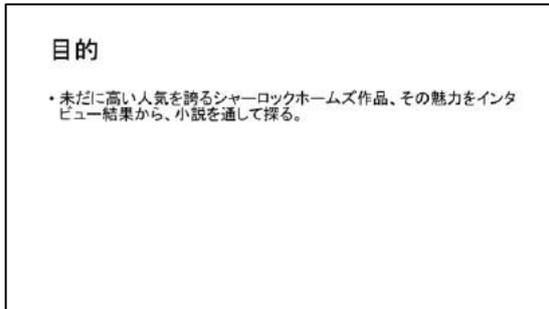
5. 伏見美瑛



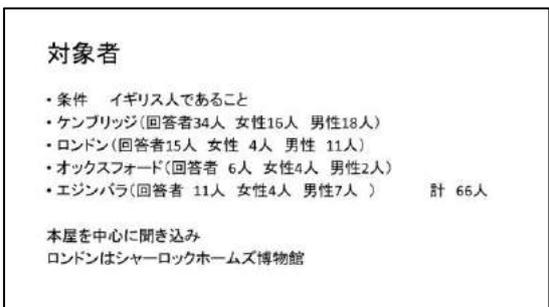
「シャーロック・ホームズの魅力」というタイトルでフィールドワークを行った。



質問項目はこの通りである。



目的は、未だに高い人気を誇るシャーロック・ホームズ作品、その魅力をインタビュー結果から、小説を通して探ることにある。



インタビュー対象者はイギリス人に限定し、それぞれケンブリッジ、ロンドン、オックスフォード、エジンバラの各都市で行った。(以下各地のインタビュー結果)

インタビュー結果
 Do you know Sir Arthur Conan Doyle?
あなたはコナン Doyle を知っていますか？

- YES
 - ケンブリッジ: 31人 (男性18名 女性13人)ほとんど50代から60代、内3人は10代20代
 - ロンドン: 15人(女性 4人 男性 11人)30代から50代にかけて
 - オックスフォード: 6人(女性 4名 男性2名)30代から50代にかけて
 - エジンバラ: 11人
- NO
 - ケンブリッジ: 3人 (コナン Doyle の発音が悪いせい?)
 - ロンドン: 0人
 - オックスフォード: 0人
 - エジンバラ: 0人

計 63人
計 3人

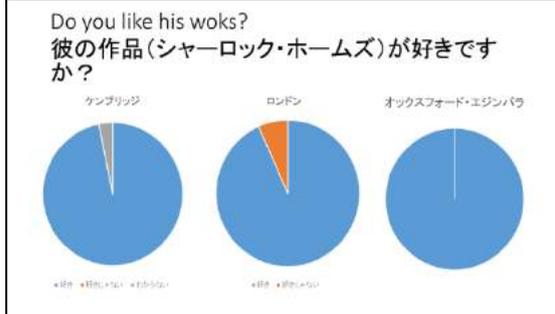
コナン Doyle を知っているか？
 Yes 66人中 63人
 No 66人中 3人

Do you like his works?
彼の作品(シャーロック・ホームズ)が好きですか？

- YES
 - ケンブリッジ: 30人(回答者30人 女性13人 男性18人)
 - ロンドン: 14人(女性 3人 男性 11人)
 - オックスフォード: 6人(女性 4人 男性2人)
 - エジンバラ: 11人
- NO
 - ケンブリッジ・オックスフォード・エジンバラ: 0人
 - ロンドン (女性 1人)興味がない FFとかが好き
- No idea ケンブリッジ: 1人

計 61人
計 2人

彼の作品は好きですか？
 Yes 63人中 61人
 No 63人中 2人



今回は、赤字の内容に注目して、作品の魅力を考察、分析した。

- Why do you think that Sherlock Holmes works are popular all over the world?
なぜシャーロックホームズ作品は世界中で人気なのだと思いますか
1. 探偵小説というジャンルが人気だから(6人)
 2. とても英国的であるから(4人)
 3. ヴィクトリア時代でロンドンを舞台としている点で魅力を感じる(みんなこの設定が大好き)(3人)
 4. TVで再放送されたり小説などで読み返すことができるから(3人)
 5. キャラクターが魅力的(3人)
 6. 書式が独特で面白い(1人)
 7. はじめて私立探偵というものを確立したから(1人)
- ケンブリッジ: 回答者19人(女性11人 男性8人)

魅力1. キャラクターの魅力

シャーロックホームズ…世界初の民間私立探偵

- ・ホームズは法の代弁者ではない
→自らが法を破ったり、犯罪者を告発しなかったりする。
- ・ホームズの前では全員が個人
- ・身分の格差や国(法)に囚われることない人物
- ・読者が偏りのない中立的な立場で小説を読み続ける事ができること

はじめの魅力は、キャラクターの独自性である。シャーロック・ホームズは法の代弁者ではない。ホームズは作中、自らが法を破ることがある。つまり、ホームズの前では全員が個人であり、身分、法という制度は機能しない。読者までもが、国(法)に囚われることなく、偏りのない中立的な立場で小説を読み続ける事ができる。

魅力2. ヴィクトリア朝の人気

- ・ヴィクトリア時代は栄光の時代や産業革命後の変動の中で表面からは見えない暗部
→様々な矛盾を抱える。
- ・19世紀のヴィクトリア朝のロンドンを象徴する雑誌『パンチ』というものが流行。
繁栄の表面の貧困や墮落までこの時代の疑問や時事問題を取り上げ、鋭い風刺を加えて、国民から絶対的支持があった。
- この雑誌パンチの役割をホームズも私立探偵という形で取り組んだ
- ・権威や時流に流されず、独自の平均感覚で公平に正義を実現。

次の魅力はロンドンのヴィクトリア朝の人気である。ヴィクトリア時代は栄光の時代だと言われるが、産業革命後の変動の中で表面からは見えない暗部や様々な矛盾を抱える時代でもあった。この時代、社会の鋭い風刺を描いた「パンチ」という雑誌が流行った。この雑誌パンチの役割をホームズも私立探偵という形で取り組んだと考えられる。

ヴィクトリア時代の社会問題－黒人差別－

- ・『回想のシャーロック・ホームズ』の「黄色い顔」
- ・登場人物
- ・妻がアメリカで、白人社会との縁を絶ち切って、愛する黒人男性と結婚した経歴がある女性。
- ・物語が発表された1893年
→アメリカでは黒人に対する人種差別が次々と合法化されていた時期
- ・物語でも黒人の娘の存在は隠されている
結末→国際的に法が黒人を受け入れずとも、家庭や人の心ではそれは関係なく、受け入れられる

その例として、人種問題を取り上げた『シャーロック・ホームズの回想－黄色い顔－』が挙げられる。これは、黒人差別について言及している。

魅力3. 物語とは別の推理小説としての楽しみ方

- ・モリアーティの素性を知能水準や体型から割り出す
→小説の中にとどまらない読者の推理の余地
- ・ヴィクトリア時代の英国の文化、社会、科学技術を駆使し、論理的に正しい場所と間違っている場所を探す
- ・登場人物の降りた駅を探る
→当時の駅や路線を調べる
- ・バスカヴィル家の館の位置を探る
→当時の地理を調べる

シャーロック・ホームズが人気の理由として推理小説だからという理由も聞かれた。この小説には物語とは別に現時世界での推理小説としての楽しみ方がある。小説の中にとどまらない読者の推理の余地を与えることで、読者を巻き込んだ推理を可能にしている。

魅力4. ビクトリア朝時代の暮らしを感じる

- ・街並み
- ・電気、蒸気、鉄道、地下鉄はすでに存在し、あまり現代と変わらない
→社会の都市化、知識水準、所得水準の向上で発達
- ・メイド
- ・召使いの地位は低く、脇役でしかない
- ・1881年200万人の人々(労働者の15%)が個人に雇われた召使い

また、『シャーロック・ホームズ』からヴィクトリア朝時代の暮らしぶりも知る事ができる。例えば、作中の脇役としてしか登場しない召使は、ヴィクトリア時代の召使の地位の低さを物語っている。

- ・環境
- ・馬車の利用により道路が糞で溢れる
- ・当時の女性がボンネットやヴェールを被っていたのは肥やしから身を守る為でもあった。
- ・濃い霧
建物自体が見えないほどであったことを語られている。
- ・ホームズの交通手段
- ・馬や馬車は高級であり、いくら中産階級のワトソンたちでも通出や緊急でなければ歩いて移動をしている

同じ様に、環境状態や交通手段についても小説を通し、ヴィクトリア時代の風潮や暮らしぶりを現代の私達を感じる事ができるのだ。この様に、小説を通して、時代の差異を知り事が出来、ヴィクトリア時代の暮らしぶりをホームズを通して学ぶ事が出来る事が一つの魅力として挙げられる。

まとめ

- ・キャラクター性の魅力
ホームズが法の代弁者としてではなく、当時の規則や法に縛られる事がない、自由な正義の執行人
→読者自身もホームズと同じように身分の格差や国(法)に囚われることなく、偏りのない中立的な立場で小説を読み続ける事ができる。
- ・ヴィクトリア時代のロンドンを小説に見ることができるという魅力
産業革命後の変動の中で表面からは見えない暗部や様々な矛盾を抱える時代で、ホームズのヴィクトリア時代の繁栄の裏面の貧困や墜落を多方面から反映された事件を解決して行く様子
→ヴィクトリア時代の現実問題への鋭い風刺の意味

まとめると、ホームズが法の代弁者としてではなく、当時の規則や法に縛られる事のない、自由な正義の執行人であることがキャラクター性の魅力としていえる。

二つ目にヴィクトリア時代の現実問題への鋭い風刺がイギリス人のヴィクトリア朝人気とつながることになったと考察した。最後に小説を超えた推理を独自に行う事が出来る推理小説としての機能が魅力としてあげられる。

- ・推理小説としての機能
- ・物語内に留まらず、小説内の事件の時系列を様々なヒントを使って示し合わせたりする
→小説を超えた推理を独自に行う事が出来る。
- ・愛される理由はイギリス文化に深く根づいた作品であり文学的価値があるから

参考文献

『ミステリ・ハンドブック』ディック・ライリー、バム・マカリスト著、株式会社原書房、2000

参考文献

6. 千野香月



Kenneth Grahame 著 *The Wind in the Willows* を通じてイギリス人読者が抱く作品のテーマと子ども観について調査、考察をおこなった。



左図は目次である。



研究背景は「戦後の子ども観が児童文学を通してどのような歴史を辿ってきたのか」について疑問を持ったからである。本作は *Moomin* の著者 Tove Jansson をはじめ国内外問わず多くの児童文学作家に影響を与えてきた事から、FW では「作品におけるどのようなテーマ・要素が読者に受容され、現代の児童文学の傾向に影響を与えているのか」について調査した。



文献を基に事前研究で分かったのは、執筆当時の英国社会に対する風刺的要素(階級制度や社会制度等)が多く込められている事である。

3.目的

- ◆現代のイギリスにおける児童文学のテーマやモチーフについて調査し、どの様な要素が扱われているのか、作品内で描かれる子ども観を考察する。
- ◆Tove JanssonがMoominで描いた子ども観とテーマを分析し、The Wind in the Willowsの枠組みが、どの様に適用されているかを考察する。
- ◆K.Grahamの動物寓話の型、風刺の対象、子ども・大人へ向けたテーマがどのように描かれているのかを分析する。

前述の風刺的要素について、実際に子供の頃読んだ経験がある読者は認知していたのか、現代の子供読者にはどの様に読まれているのか、インタビューを通して考察する事が本研究の目的である。

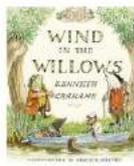
The Wind in The Willow (1908) あらすじ

大抵に描かれたモグラは、家を飛び出し、川辺に語り、加齢をホーグ、金持ちヒキガエル、そして、動物寓話の型、風刺の対象、子ども・大人へ向けたテーマがどのように描かれているのかを分析する。

後半では、ヒキガエルが他人の車を勝手に運転し、心算で年輪に入らぬ、何とか脱出した後、家に戻るが、定数はテンやイタチに奪取られてしまっている。

モグラ、アナグマ、川ネズミはヒキガエルを助け、腐敗を取り除き、落ち着いた神子になる約束をする。

翻訳者: 大人と子どもを分るまするまやワグナー 監訳: 橋本 友信



左は The Wind in the Willows 作品のあらすじである。物語はモグラによって語られる川辺の暮らしと、金持ちヒキガエルの冒険、占領されたヒキガエル屋敷の奪還の三部構成である。

4.海外FW調査

- ◆場所...Cambridge, Edinburgh, London, Oxford(書店を中心に)
- ◆対象者...小学校低学年の子ども~80代の男女
- ◆人数...41人
- ◆形式...インタビュー形式(+対話の中から関連項目を問う)
- ◆質問項目...
Q1)Do you know *The Wind in the Willow*?
Q2)What is the theme or characteristic of this story?
Q3)What kind of element is important when you chose a book for a child?

FWインタビュー調査

インタビュー調査は訪問した4つの都市で実施し、対象者は子供から大人まで幅広く設定し計41人から回答を得た。質問は三項目に設定し、結果は以下のとおりである。

5-1.調査結果

Q1) Do you know The Wind in the Willow?

- ◆結果...回答者の80.5%が「Yes」と回答(41人中33人)
- ◆読んだ時期は「幼少期」「6~7歳頃」「11歳」、場所は「家で」との回答が多かった。
- ◆しかし、若者の中には「知っているが、実際に読んだことはない」と回答した人も居た。
- ◆年配の方の中には「昔は教科書に載っていたが、今は載っていない」と回答した人も。
- ◆→現代では古典作品として扱われているが、児童文学として認知度は高い事がわかった。

Q1.Do you know The Wind in the Willows?

→80.5%が YES と回答。

→全世代を通して幅広く認知されており、現代では「古典作品」として位置付けられつつも書店では絵本や仕掛け本など様々な形態で出版されていた。実際に学校で読んだという現代の子ども読者からも回答を得る事ができた。

5-2.調査結果

Q2)What is the theme or characteristic of this story?(複数回答可)

結果...38の回答されたキーワードを分類

- friendship[kind]...6票。友情、他の種族を思いやる心。
- [humorous]character]...10票。特にヒキワル工(LToad)が印象的との回答が多かった。
- [lesson][moral][metaphor]...6票。物語に込められた教訓、道徳
- [funny][fantastic][imagination]...10票。ストーリーの面白さ。空想的な物語要素。
- [nature][atmosphere][countryside]...3票。読者に自然や田舎ののどかな風景を伝える。
- [classic(classical)]...2票。古典作品として認識されている。
- [lovely]illustration]...1票。EHシェパードによる挿絵

※意味は変えられたが、挿絵が印象的という。と回答した人も

Q2. What is the theme or characteristics of this story?

→「ユーモアのあるキャラクター(特にToad)」、「ストーリーの滑稽さ」、「道徳・教訓性」、「友情・他者理解」が上位に挙げられ、他に「自然」「古典」「美しい挿絵」等の回答も挙げられた。

→子供読者視点ではこれらの要素が重視されている事がわかった。

5-3.調査結果

Q3)What kind of element is important when you chose a book for a child?

結果...40の回答されたキーワードを分類

- 冒険を描くもの...10票
- イラストの豊富なもの(文字が少なめ)...8票
- 年齢ごとの能力に合わせたもの...6票
- 空想力を育てるもの...6票
- ストーリーの内容...5票
- キャラクター性...4票
- 教育的(道徳的)...2票
- 自然に関する描写があること...1票
- 歴史的な出来事が描かれている...1票
- シリーズ作品であること...1票
- 本の調色(カバー)...1票

→しかし「最終的には、子供の趣向に合わせて選定する」との回答が多く、Adventure/Fantasy要素は子どもの趣向に合わせて回答したと見られる。→10代より小さい子供を持つ親からは、illustrationが重要視する声が多く挙げられた。

Q3. What kind of element is important when you chose a book for (your) child?

→「ストーリーの冒険性」、「イラストの豊富さ」、「空想力を養うもの」、「年齢毎の能力に適しているかどうか」が上位に挙げられ、他には「教育・道徳的」「自然描写」「キャラクター性」等が挙げられた。大人読者視点では、児童文学に対しこれらの要素を求めている事がわかった。

5-4.FW調査でのまとめ・問題点

- The Wind in the Willowsを読んだことがある、と回答した人は多かったが、Moominシリーズを実際に読んだことがある、と答えた人は少なかった。
- (コミック版を見たことがある、キャラクターのみ知っているという回答のみ)
- 古典作品として人々に認知されているThe Wind in the Willowsが今も子供読者の間で愛読され、ミュージカルや野外公演劇で演じられたりするなど、盛り絶が継続している。
- 作中においてToadが印象的という回答があるのに対し、ほかの動物について触れる回答がなかった。
- Grahamの他の作品についてあまり知られていない。
- 戦後イギリスにおける児童文学について得られた情報が少ない。
- 質問3において、「子ども」の定義を明確にしていなかったため、回答に入らなさが出てしまった。(年齢の幅が2歳〜11歳まで様々)

調査の結果、映画化やミュージカル化、学校行事の劇等、形態を変えながら現代も継承され続けている事がわかった。特に書店員との話を通して、かつての児童文学の潮流であった Animal Fantasy (動物が人間のように振る舞い作り上げる空想世界での物語) が Magical Fantasy (魔法が使える空想世界での物語) として現代に継承され、本作品はその潮流を作り上げた作品の一つである事がわかった。

6.今後の課題

- Grahamの他の作品を読み、作中で描かれる要素を分析しThe Wind in the Willowsで扱われるテーマとの違いを理解する。
- また、Grahamが作品を書いた当時のイギリスについて、同時期の児童文学作品を通して考察する。
- 戦後イギリスではどのような児童文学作品が受容されてきたのかを調査する。
- Grahamの作品で描かれるテーマがMoomin作中でどのように描かれているか比較・分析する。

今後の課題としてGrahameの他作品で描かれる要素との比較を行う事、ファンタジー児童文学の潮流を形成した同時代作家を取り上げ考察する事を挙げた。

7.参考文献

- トーベ・ヤンソンについて - ムーミン公式サイト
<https://www.moomins.co.jp/love/> (2018-6-24accessed)
- Studio International- Tove Jansson
<https://www.studiointernational.com/> (2018-6-24accessed)
- Tove Jansson's Rare Vintage Illustrations for Alice in Wonderland - Brain Pickings
<https://www.brainpickings.org/2014/06/30/love-jansson-alice-in-wonderland/> (2018-6-24accessed)
- The Wind in the Willows - Official Website.
<https://www.windinthewillows.co.uk/home.html> (2018-6-24accessed)
- E. H. Shepard - Curtis Brown
<https://www.curtisbrown.co.uk/client/eh-shepard/> (2018-6-24accessed)
- BBC Four - Moominland Tales: The Life of Tove Jansson
<https://www.bbc.com/programmes/09/p0k62> (2018-6-24accessed)
- クネス・グレアム 石井栞子訳(2002)『たのしいムーミン』岩波書店
- Peter Hunt(2018),THE MAKING OF The Wind in the Willows, Rodiclan Library
- トーベ・ヤンソン 山田静枝(1978)『たのしいムーミン 巻1』講談社
- トーベ・ヤンソン小科習字合字帳(2011)『新装版 ムーミンワンの思い出』講談社
- 青木由紀子 (2009) 『七つのテーマから読み解く英米児童文学』ミネルヴァ書房

左図は参考文献である。

4. Representation of British Society and Culture

on *Harry Potter* series

Dolores Umbridge

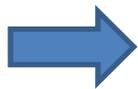
人物

- ・『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』（2003）以降の作品に登場する。
- ・魔法省に勤めていたが、ダンブルドアに脅威を感じていた魔法省が彼女に監視役を命じ、約一年間ホグワーツの闇の魔術に対する防衛術の先生になる。
- ・スリザリン以外の生徒、特に目立っていたハリーには厳しく当たり、校則を増やしてすぐに罰を与えた。
- ・魔法省の権力を行使し、ダンブルドア校長までもホグワーツから追い出した。
- ・ピンク、猫、フリルが大好きで、彼女の服、持ち物、部屋は全てピンク。



Studio Tour で気になったこと

- ・ピンク色の服の変化



- ・魔法省の権力が強くなっていくのと同時に、彼女の服のピンク色は濃くなっていく。
- ・部屋の中は本当にピンクだらけ。
→権力とピンク色の関係は？

J. K. Rowling の短編より

ファン参加型サイト「ポッター・モア」に Umbridge に関する短編を J.K.Rowling が掲載している。

- ・ Umbridge のモデルは J. K. Rowling が嫌いだった女性たちで、彼女らは無慈悲な人間性を持っていた。
- ・ 名前の由来は、Dolores=悲しみ、Umbridge=周囲に腹を立てる。
- ・ 彼女は非難されるべき人物。

考察

Studio Tour で発見した彼女の服のピンク色の違いから、**権力とピンク色の関係**について考察を行う。

- ・ ピンクは一般的に女性、特に少女を示すものであった。
- ・ モデルは無慈悲な女性たち。
 - Umbridge も実際に無慈悲な女性（ハリーに一生残る傷を負わせた）。
権力を増すごとに彼女の無慈悲さも増している。
 - その無慈悲さを少女の無垢さを連想させるピンク色で隠そうとしているのではないか。そのため権力が増してより無慈悲になっていくのと比例させてピンク色を濃くし、実際の無慈悲さを隠して、さらに人々に権力を振るおうとしているのではないか。
- ・ ピンク=女性の考え方は、「平等」が謳われる現代では受け入れられない。
- ・ 権力を振りかざし人々を支配するリーダーは間違っている。
 - 間違った考えやイメージを示す Umbridge というキャラクターを印象的に描くことで、今でも残るそのような考えを批判しているのではないか。

Rubeus Hagrid

人物について

- ・ハリー・ポッターが一番最初に出会った魔法使い。
- ・ホグワーツで森番をしている。
- ・ハリー・ポッターシリーズ第三巻からは魔法生物の教師になる。
- ・巨人との混血。
- ・かつてはホグワーツの生徒だったが問題を起こして退学となったが、無実を信じたダンブルドアによって森番として雇われる。



ハグリッドの階級

- ・職業から現在のイギリスにおける労働者階級だと考えられる。
- ・巨人の血が混ざっていることで差別される。

考察

ハグリッドは巨人の血が混ざっていて、差別されるのを恐れてそれを隠して生きている。これはハリー・ポッターシリーズで登場する「穢れた血」や「マグル」などと同様で、現実社会の差別されてきた人種を表現していると考えられる。

Malfoy's Family

純血魔法使いの一族。歴史の古い名門家であり、魔法省に対して強い影響力を保持している。強い純血主義を持っており、マグルを非常に蔑視している。ウィルトシャー州に建つ豪邸に代々住んでいる。

主要人物

・ルシウス・マルフォイ

マルフォイ家の現当主。ホグワーツ魔法魔術学校の理事も務め、多大な影響力を持っている。ヴォルデモートを支持する死喰い人のひとり。ホグワーツ在学時代の所属寮はスリザリン。

・ドラコ・マルフォイ

ルシウスの息子。ハリーの同級生で、所属寮はスリザリン。純血主義の教育を受けて育ったため、マグルに強い反感を示し、しばしばハーマイオニーを「穢れた血」と侮蔑する。両親からの溺愛を受けており、ドラコ自身も両親に忠誠的である。ブロンドの髪、青白い肌の色は父とよく似ている。後に死喰い人に参加。

マルフォイ邸



マルフォイ家の住むこの豪邸は中世から代々受け継がれてきたものであり、かつてマルフォイ家が荘園領主として大きな権力を持っており、約10世紀の時を経ても尚、その力を保持できているということが窺える。作中では死喰い人の集会の舞台としても登場し、その場面がハリー・ポッター・スタジオで再現されていた。建物や家具の格式高い造りや、先祖の立派な肖像画からは非常に貴族的な印象を受ける。卓上に吊るされているのはマグル学の教師、チャリティー・バーベッジである。彼女はマグルを擁護する立場をとったことでヴォルデモート卿の怒りを買って、彼に仕えるナギニという巨大な蛇に殺される。一家の反マグル思想を象徴するシーンである。

召使の存在

作中では、マルフォイ家に仕える屋敷しもべ妖精としてドビーが登場する。マルフォイ家の人々がそぐわないとする面倒な仕事はドビーに任せられ、ルシウスやドラコから暴力的な扱いを受けていたことが明かされる。屋敷しもべは無償で働かなければならないため、裕福な名門家に好んで仕えることが多い。

ドラコにみられた変化

ドラコは hogwarts 卒業後、スリザリンの同級生の妹アストリアと結婚し、息子のスコープピウスを儲けたことが第 7 巻の終章で明かされる。アストリアもドラコ同様に、純血主義の中で育った人物である。しかし彼らは第二次魔法戦争を経て純血至上主義を脱しており、かつてルシウスらがドラコに施した教育とは対照的に、マグルに寛容的な思想のもとでスコープピウスを育てた。結果ドラコとアストリアはルシウスらと対立することになる。約 10 世紀にもわたって、純血主義のもと権力を保持してきたマルフォイ家だが、ここに来てその思想に大きな変化があったことが確認できる。

考察

マルフォイ家は大きな権力や財力を保有しており、また彼らが長い歴史を持ち血筋を最重視してきたことから、貴族的な上流階級に属する一家だと判断できる。作中で彼らがしばしば冷酷かつ暴力的な存在として描かれるのは、現実世界の上流階級の名門家に対する皮肉の意を、J・K ローリングが意図的に込めているとも解釈できる。物語終盤、ドラコの純血主義思想の変化が描かれる場面からは、排他・差別的な純血至上主義の終焉という、希望的な意味合いを見出すことができる。ドラコらを純血主義から脱させたことで、寛容さが必要とされるようになった現実社会に物語を適応させているのではないだろうか。

Ron Weasley

ハリー・ポッターの物語において、同じ「純血」の血筋であるドラコ家とウィーズリー家の経済状態や待遇の違いが顕著に書き分けられている。

ドラコとロンの外見的差異

ハリーの親友

ロン・ウィーズリー

- ・ウィーズリー家の7人兄弟の末っ子。
- ・特徴は真っ赤な燃えるような赤毛で、背は高くひょろっとした体型。
- ・何処と無く間抜けた印象を抱かせる少年（青年）。



→全員ブロンド髪を持ち、上流階級に相応しい堂々とした立ち振る舞いをするドラコ家とは対照的。

→金髪・青目を良しとする白人主義思想が反映している。

経済状態の差異

ドラコ家

- ・中世フランスから、隣接するマグルの土地を併合し、その後もマグルの資産に手を出しながら、成長を遂げた魔法省屈指の資産家。
- ・魔法界で最古の純血家系の一族とされ、間違いなく純血と称される一族「聖28一族」にも属している。
- ・純血の一族の中でも特に反マグル・純血至上の思想が強いため、そのための活動や支援を行なっている。



ウィーズリー家

- ・家が傾き、息子のドレスも母親の手作りで賄う程の貧乏である。
- ・ロンの父親は魔法省に勤務する役人として働き、マグル製品不正使用取締局長を務めている。
 - しかし、ドラコ家を鼻屑するような純血思想が蔓延る魔法省では、マグルやその他の種族も分け隔てなく愛すロンの父親の思想は受け入れがたく、出世が難しい状態にある。
- ・家族9人を一人で養うことも困窮の原因といえる。二者の純血という同じ立場ながら、経済状態の違いをもつキャラクターを故意的に作成。
 - 階級主義の問題を示唆。
- ・ウィーズリー家とドラコ家は魔法省の中でも数少なく、もともと重きを置かれる純血。
 - その立場はイギリス社会の構図では上流階級に相当。

富の収入源も上流階級の中の地位を位置づけるための大きな要因。
→財産は、労働によってもたらされるべきものではなく、先祖代々受け継がれてきた土地家屋の所有からもたらされるべきものであるとされている。

ロンの父親 アーサー・ウィーズリー

魔法省にて日々の働き、そのお金で家族を養っている。



ドラコ家

華族として働かずとも収入を得ている。

→同じ血統（上流階級）でも、特権階級としての意識が高いうえ富を得ているドラコ家と比べ、マグル達にも気を配れ、一般的に良心的で好意的とみられるウィーズリー家が上流階級（「純血」の魔法族）の中では差別の対象となる。

→イギリス社会における階級差別を顕著に批判していることが読み取れる。

上流階級と労働者階級の区別

ロンは一方で、マグル（中産階級、労働者階級）と明確に区別されている点がある。

→魔法族のマグルの世界における文化の無知。

例：ロンは、サッカーというスポーツを知らない。

※サッカーは現実のイギリス社会では労働者階級が嗜むスポーツ。

→ロンがサッカーを知らないという設定は上流階級と労働者階級の違いを明確に区別する為に意図的に挿入されたものだと考えられる。

→現実の英国社会での階級間に見られる互いの生活習慣に対する無関心の現状を垣間見ることが出来る

血統の混合と社会変動

第2巻『秘密の部屋』（1998）での純血に執着するマルフォイに向かってロンが発した台詞。

「最近のほとんどの魔法使いが混血なんだよ。マグルと結婚しなけりゃ魔法族は死に絶えてるよ」（pp. 127-28）

→英国社会における 階級間の結婚の増加を示唆。

→多民族、多文化を特徴とする現代の英国社会を反映している。

・実際の人種比率（1999年の統計）

英国の総人口に占める移民の割合は6.8%。

（インド人、パキスタン人、カリブ系黒人、アフリカ系黒人、バングラデシュ人、中国人）

→現実の移民問題などによるイギリス社会での人種の混合の社会変動を示唆。

Representation of Nature on the Films of *Harry Potter*

Series

研究課題

映画ハリー・ポッターに登場する植物や自然風景には、イギリスの文化がどのように反映されているかを展示等を見て学ぶ。ハリー・ポッターの映画のセットには、日本の映画の撮影道具にはない細やかなセットが用いられており、そのどれもがとても造りこまれている。わずかしか登場しない自然描写ではあるが、そこからイギリスの文化の表象を探る。

スネイプ先生の教室

スネイプ先生は薬草学を教える先生で、その教室には多くの実験用の植物の入った瓶が置かれている。その瓶の中には、学者と共同で選んだ本物の植物やその模型が入っている。



禁じられた森

ホグワーツ魔法学校の周りには、生徒が立ち入ることが許されていない深い森がある。この森には多くの魔法生物が生息しており、またハグリッドがこれを管理している。この森はほぼすべてスタジオにあるセットで撮影されたようだ。



実際の木よりも太く、また大きく曲がりくねった根で再現されており、より一層怪しさが増している。

魔法生物

「マンドレイクの根」という魔法生物で、呪いや魔法で姿を変えられてしまった人を元の姿に戻すのに使われる解毒剤として使用される。この植物の成長しきった根をハリーたちが抜くシーンが映画内にあり、この泣き叫ぶ根の声を聞くと死ぬこともあるという。この生物は、映画内ではそっくりの動く人形が用いられる。



考察

以上のように、映画ハリー・ポッターの中には多くの植物や自然の描写が登場する。イギリスは古くから植物学の研究が盛んで、伝統あるオックスフォード大学植物園のような施設も数多い。そのため、作品内の記述や映画セットにも細かな工夫がされていることがよく分かった。また、禁じられた森や、魔法の威力を持つ魔法生物の植物の根など、植物にも魔力を持ちうる神秘性があり、またそれは私たちのあまり目の届かない部分に宿っている、ということが伺える。このような植物に対する作者含め映画関係者の想いや細かなこだわりは、植物学が古くから盛んであったイギリスならではのものであると我々は結論づけた。

Representation and Effects of Animals

on *Harry Potter* series

劇中では魔法使いのペットとして登場する動物を専門のトレーナーが訓練し、映像を効果的に盛り上げている。右図は映画に採用された **Animal Actors** であり、ハリー達魔法使いのパートナーとして作品に欠かせないキャラクターとなっている。彼ら動物が魔法使いのペットとして描かれるのは、ファンタジーや伝承において魔女や魔法使いに従属する使い魔 (**familiar spirits**) の存在を踏襲しているものと考えられる。ハリー・ポッターでは主に梟、猫、犬、蛇などがペットとして登場し、ミュージアム内では撮影の様子を解説する映像資料等が流れていた。以下、劇中で中心的に登場する使い魔の梟、猫、犬、蛇の4種類の動物について、英文学における梟、猫、犬、蛇の描かれ方とハリー・ポッター映画内でのこれらの動物の描かれ方を比較しながら考察する。



梟 [例：Hedwig]

ハリーのペットで、白い雄梟。ハリーと友人との手紙のやり取りを任せ、時には危険な仕事もこなす。

→英文学上では「賢い老梟(wise old owl)」と呼ばれるように知恵の象徴として扱われる。

猫 [例：Crookshanks]

ハーマイオニーの飼う赤色の猫。非常に賢く、小説第三巻では初対面のスキャバーズの正体を見破り、襲いかかった。

→シェイクスピアの戯曲 *Pericles* (1608) では「鼠の穴の前で猫が足を曲げて身をかがめる」のように、静かに獲物に近づき、その機会を逃さず捕らえる瞬間を特徴としている。

犬 [例：Fang, Fluffy]

ハグリットの飼う人懐こく臆病なボアハウンド。Fluff もハグリットが持ち込んだ三頭犬で賢者の石を守る番犬。音楽を聴くと睡眠に入る

→猫と同様、一般的に人間に親しみ深い動物として認知される。バイロンは「かわいそうな犬、終生変わることのない友」と哀愁を込めて誉めそやし、ウォルター・スコットは *Redgauntlet* (1824)の中で「触らぬ神に祟りなし (Let sleeping dog lie)」という諺で犬を用いている。

蛇 [Basilisk]

スリザリンの継承者に従う蛇で、睨みで相手を即死させる程危険。牙には猛毒を含む。

→ヴェルギリウスの『牧歌』(紀元前 37 年) の中では、「目に見えない危険」を意味する
「a snake in the grass (草の中の蛇)」という言い回しが生まれた。

5. The Diary

8月5日(日)

- ・ケンブリッジに到着。
- ・到着後寝ようと思ったが暑いうえ、寮の部屋に冷房がなく結局夜まで眠れなかった。
- ・ドアの覗き穴が高くて背伸びしないと見えない。
- ・街を少し散策したが、歩いている人のほとんどが白人でアジア人はほぼいなかった。

8月6日(月)

- ・サマーコース一日目はケンブリッジの有名なところを巡った。
- ・同じサマーコースに参加している中国人と英語で話した。お互い英語のなまりがあるためか、意外と意思疎通が難しかった。
- ・肉じゃがを作ろうとしたが使える肉が売ってなくて肉なしになった。でも美味しかった。
- ・酒は意外と近くの店に売ってなかった。
- ・今年は暑すぎ乾燥しすぎで芝生が枯れているらしい。イギリスの公園は緑の芝生が綺麗なイメージがあったので見られなくて残念。

8月7日(火)

- ・街を歩いていると蜂みたいな虫がひたすらたくさん飛んでいる。刺してはこない。
- ・初インタビューはアメリカ人女性だった。ツーリズムマーケティングの先生らしい。日本文学は読んだことなく、映画は見たことあるが覚えてないと言っていた。
- ・寮の洗濯機の蓋が閉まらない事件があった。途中で蓋が何度も開いてしまうらしく、滝沢君が乾燥機に2時間捕まっていた。
- ・初めてパブに行って初めてフィッシュアンドチップスを食べた。イギリス料理はまずいと有名だったので期待はしなかったが普通においしかった。こってりしていて量が多いのでみんなでシェアしてちょうどよかった。外国のビールは今まであまり飲んだことがなかったがとてもおいしかった。
- ・注文がうまくいかず、違う種類、違う本数のお酒が出てきた。

8月8日(水)

- ・古本屋の近くでたくさんインタビューをした。公園よりも声をかけやすく、多くの人が答えてくれた。古本屋も見たが味があっというところだった。
- ・村上春樹を知っている人には1人しか出会えなかった。
- ・授業で行事について勉強した時、中国ではクリスマスにリンゴを送ると中国人の人が言っていて驚いた。

8月9日(木)

- ・授業でスマホを使っていた時 wi-fi がなかなかつながらず困っていたら中国人の人に機内モードを消されそうになって焦った。
- ・初めてイギリスでスコーンを食べた。ジャムとクリームどちらをつけてもおいしかった。
- ・フィールドトリップのはずが、かなり強い雨で中止になってしまった。
- ・雨の時、元いたお店に戻って普通にもう一度座っている中国人たちに少し驚いてしまった。
- ・到着した当日とは違ってかなり寒かった
- ・授業で、中国では誕生日をわざと変えて子どもを早く学校に入れることがあるらしいというのを聞いて驚いた。

8月10日(金)

- ・Waterstone というイギリスではメジャーな大きい本屋さんに行ってきた。
- ・本の後ろの壁がウィリアム・モリスで可愛かった。
- ・村上春樹や漫画など、日本の作品が置いてあった。
- ・大雨だったが傘をさしていない人がとても多かった。
- ・スーパーはセルフレジ多いことに気づいた。レジで毎回“hi”とか“hello”って言ってくれて、客もちゃんとそれに答えるのがいいなと思った。

8月11日(土)

- ・街頭インタビューしていたら 1992 年に府中に半年住んでいたイギリス人女性に出会った。
- ・英語の先生をしていたが、日本は女性の立場が低すぎて嫌になって帰ってきたらしい。お口に手あてて笑わなきゃいけないとかもいやだったと言っていた。かなり昔のことなので時代のせいもあるかもしれないが、今も昔もイギリスより日本の方が男女平等が進んでいないことを改めて実感させられた。
- ・自分の住んでいる八王子も知っていると言っていてびっくりした。大学でさえ東京に住んでいる人に会うと驚くのにイギリスで出会うとは衝撃だった。
- ・インタビューは大変だけど色んな出会いがあって面白い。

8月12日(日)

- ・ Short Trip としてバスでオックスフォードへ行った。
- ・ ケンブリッジからオックスフォードへはバスで2時間ほど。雨ではあったが車窓から見える田園風景の眺めが良かった。
- ・ オックスフォードへ着くと、そこで一時解散となったため、集合時間まで博物館やカレッジ巡りをした。
- ・ オックスフォードもケンブリッジに劣らない歴史あるカレッジが多く、今回のトリップで見て回ることができなかつたので、滞在するときにしっかりと観たいと思った。
- ・ 帰り道に寄ったアウトレットは国際ブランドが多く、物価もかなり高かったが、中国人クラスメイトはかなり多くの買い物をしていたので驚いた。

8月13日(月)

- ・ 授業後に買い物と洗濯を済ませてジーザス・パークにて勉強とインタビュー調査
- ・ 芝生に座って『秘密の花園(Secret Garden)』を読んだが、きれいで開放的な庭園を「秘密」として入ってはいけないものにするという庭園の表象方法を知った。庭園にもいろいろなイメージがあるようだ。
- ・ インタビュー調査では2名の男性に意見をいただくことができた。2人とも知り合いという老人で、この公園には来て川沿いを歩くのが退職後の休日の楽しみでもあると言う。
- ・ いまだに洗濯機の使い方がよく分からない。

8月14日(火)

- ・ 授業はイギリス人の名前についてであったが、ほぼゲームのようなものであった。中国人のクラスメイトは楽しそうであったが、個人的にはその名前の背景や歴史についても知りたかつた。
- ・ カフェテリアでご飯を食べたが、イギリスのお米は日本のジャポニカ種と違って細長くて粘り気がないインディカ米のため、ホワイトソースなどのソースには合うがお米そのものの味はあまりない。
- ・ ケンブリッジ大学のトリニティ・カレッジを見学した後、本屋にてインタビュー調査をした。この日は本屋の店員さんと『ピーターラビットのおはなし』について、イギリス国内での評判などについてお話を伺うことができた。
- ・ 夜はケンブリッジ・シェイクスピア・フェスティバルの見学に行き、トリニティ・カレッジの附属庭園で『マクベス』を鑑賞した。日本でのミュージカル鑑賞とは異なり、現地の人は芝生にシートを広げて食事をして談笑しながら開演まで待っていた。

8月15日(水)

- ・授業は『ハリー・ポッター』に関するもので、作品中にイギリス社会や現代社会に関する批評が多く含まれていることが分かった。
- ・日本では大変有名な『ハリー・ポッター』であるが、中国人クラスメイトは知っている人がかなり少なく、驚いた。
- ・午後のアクティビティはテム川でのパント体験であった。下流の船溜まりから乗船し、川を上って市街地のはずれまで行ってから下るというコースで、案内役の男性のガイドは発音・訛りで一部聞き取れない部分があったが、かなりベテランのようであった。
- ・川辺には柳が多く植えられており、昔ながらの風景を残しているのだろうかと感じた。

8月16日(木)

- ・朝からロンドンへ **Short Trip** へ。この日も雨であった。
- ・ロンドンに着くとすぐに解散であったため、時計塔の近くで解散になり、地下鉄を使って個人的にロンドン滞在中に行く予定のない **V&A** 博物館へ行った。
- ・ロンドンの地下鉄はかなり古く、駅構内も薄暗くて汚い。
- ・**V&A** 博物館は多くの観光客でにぎわっていた。特別展“**Fashioned from Nature**”では、植物が家の外にあったものから徐々に服装の模様・装飾に取り入れられ、家の中でも自然との接点が生まれた過程を学べた。
- ・タマムシという昆虫の翅を白いドレスに貼る装飾には驚いた。
- ・ウィリアム・モリスのコーナーもあり、ゼミの輪読で習った彼の質の高い芸術作品を間近で見ることができた。現在はカフェになっているモリス・ルームの内装もきれいであった。

8月17日(金)

- ・かなり難易度の高い『ホビット』の授業の後、サマーコースの修了証を先生からいただいた。加藤先生が写真を撮ってくださった。
- ・ピザを用いたパーティーを大学前の広場で行った。この広場はケンブリッジに到着した際には黄色に枯れていたものの、この日はすっかり緑に変わっていることに気づいた。
- ・中国人クラスメイトに、市大生がこの後他のイギリスの都市を回るために引き続き滞在することを伝えるとかなり驚いていた。

8月18日(土)

- ・タクシーで2時間程揺られ首都ロンドンへ。宿泊地は地下鉄 **Euston** 駅の近郊。
- ・街ではガラス張りの近代的な建物から石造りの荘厳な建物まで見られた。特にタクシーで送迎中、アパート街ではいたるところにブループラークが見られ、宿泊地を出て徒歩2分程にはケインズ経済学で有名なケインズのブループラークを発見した。日本の地下鉄と比べ、車両を区切る扉が無い（壁の引っ張りによって車両が区切られている）ので、天井は低いものの空間的な広さを感じた。またつり革は無いため車両に設置されているポールの数は多く感じた。
- ・ホームズ博物館では作中の場面を再現した蠟人形が展示され、ガイド役の人も当時の執事やメイドの服装であり、まるでヴィクトリア朝時代にタイムスリップしたようであった。
- ・残念ながらベイカー・ストリートの駅にあしらわれたホームズのシルエットを発見することはできなかった。

8月19日(日)

- ・午前 Museum of London へ。ロンドン万博で展示された美術品などを撮影していると、一人で見て回っていた旅行客の女性から写真撮影を頼まれ、エジプト風の建造物の前で撮影。様々な地域から観光客が集まっているのだと実感した。館内は20世紀初頭の町並みを再現したエリアもあり、帽子屋や酒場など、等身大スケールで見て回ることができた。
- ・サフラジェットの映像資料では当時の運動歌を語り継ぐアーティストが紹介されるなど、現代への影響も語られていた。
- ・午後はディケンズ博物館へ。寝室には、『オリバー・ツイスト』冒頭でオリバーがお粥のおかわりを懇願する“Please Sir. I want some more”のセリフが挿絵と共に壁に書かれ、隣の部屋にはカラフルな紙芝居が置かれるなど、子供主人公とする作品を多く残したディケンズならではの品が多く展示されていた。ホームズ博物館と同じく、シックで上品な色味の壁紙やソファなどヴィクトリア調家具が印象的であった。

8月20日(月)

- ・午前はナショナルトラストが管理するオスタリーパークへ。ロンドンから少し離れた郊外に位置し、周辺はガーデニングが行き届いた二棟住宅街が多く立ち並んでいた。
- ・前日まで公園内で *The Wind in the Willows* の野外公演を行っていたことを知り、一足遅かったのが非常に残念に感じた。しかし、園内では教員で学芸会の中で本作品を上映したことがあるという女性に話を聞くことができた。その女性は **Ratty** を演じたらしく、現代でも本作品のミュージカル化がされたり、学芸会で用いられたりしていると教えてくれた。
- ・公園内はジョギングやサイクリング、ピクニックなどそれぞれ思い思いに時間を過ごす人たちが見られ、ロンドン市民の憩いの場になっていることがわかった。

- ・午後はハリー・ポッター・ミュージアムに入場。映画でお馴染みの場面を再現したセットや、ハリー達が来た服装の展示など、ハリー・ポッターの世界観に最大限浸ることが出来る空間であった。

8月21日(火)

- ・朝、キングス・クロス駅からの列車でロンドンを発ち、約4時間半かけてエディンバラに向かった。早めに行動を開始したおかげで、キングス・クロス駅構内の9と3/4番線を模したコーナーも見学できた。駅構内は広く迷いそうだった。
- ・Fさんが切符をなくしてトイレに隠れたが、優しい車掌さんでそんな必要はなかった。
- ・エディンバラ到着時は暫く雨が降っていた。タクシーで寮へ向かい荷物を置き、バスで市外へ。日本と違いバス内に電光掲示板や停車の合図がないので少し緊張した。
- ・エレファント・ハウスで昼食。ハリー・ポッターファンの落書きで埋め尽くされたトイレも実際に目にすることができた。
- ・エディンバラ・フェスティバル開催中ということもあり、街は観光客やフェスティバル参加者で大いに賑わっていた。
- ・急勾配の市街を歩き、エディンバラ城へ向かった。城からは美しい市街が一望できた。戦死者を称える聖堂や、当時の使用状況を再現した展示などがあつた。土産店ではウイスキーが多く売られていた。
- ・センズベリーでそれぞれ夕食を購入し寮へ。

8月22日(水)

- ・朝食はエディンバラの寮でもバイキング方式だった。調子に乗って朝から食べ過ぎてしまいがちだ。
- ・この日は各々別れて調査を進めた。途中エディンバラ・フェスティバル・フリンジ最中のメインストリートを訪れたところ、沢山の人が溢れていた。所々でスコットランド訛りの英語を耳にした。
- ・ジョージ4世橋上のGeorge IV Barで昼食。念願のハギスに挑戦することができた。クセはあり好みは分かれそうだが、美味しく頂けた。
- ・午後、同じくエディンバラでFW中の土屋ゼミ生と合流できた。入学時以来の友達が土屋ゼミにおり、午後は二人で市内を散策したり、パブをはしごしながら、近況を沢山聞いたり話したりできた。

8月23日(木)

- ・午前中は全員で国立博物館へ。展示は歴史・自然・文化など多様なジャンルに渡るが、科学関係の展示も充実しているのがこの博物館の特徴のようだ。クローン羊のドリーの剥製も目にすることができた。

- ・平日ではあるがやはり人が多い。
- ・午後、ウェイバリー駅から列車に乗りオックスフォードへ。この駅も非常に広がった。広い待合室にピアノが一台ぼつりと設置されており、青年がイギリスの某ロックバンドの曲を弾いていたのが印象的だった。
- ・オックスフォードに着いたころはもう夜遅くだった。少し奮発して予約したクライスト・チャーチにチェックインし、寝床に入った。

8月24日(金)

- ・朝からクライスト・チャーチで朝食をとった。
- ・クライスト・チャーチは『ハリー・ポッター』で食堂の撮影現場として使われており有名だ。今まで、映画の中やインターネットの写真でしか見てこなかった風景が自分の目の前に広がり、更には実際にそこで食事を取れるという事実がとても嬉しかった。
- ・食事自体については、私の1番好きなマッシュルームの料理もあり、今までのイギリスで提供される食事で1番美味しいと感じた。
- ・アクティビティでは、ブレナムパレスへ行った。
- ・パレスの中はそれに値するほど装飾が綺麗で、歴史的背景やイギリスの戦争観について学べる場であったと思う。イギリスは第二次世界大戦の戦勝国であり、日本のように核兵器の被害も被っていない。そのためか、戦争被害者の展示や戦争を悲観するようなもの、言葉、説明はされておらず逆に戦争を名誉なものとして掲げているような印象を受けた。

8月25日(土)

- ・今日は20分前から並んだおかげでダンブルドア校長の席に座ることができた。ホールを見渡せる景色の違った朝食を経験でき、自分の中で良い思い出ができた。
- ・午前中は、ボドリアン図書館とラドクリフカメラへ向かった。館内は生徒以外立ち入り禁止で外観しか見ることができなかった。
- ・日本にはこのようなゴシック調の建物様式はなかなかみることができない為、建築の様式という側面で文化的違いを感じるこののできる一日であった。
- ・最終日だった為、自身のインタビューを中心にラストスパートをかけた。

8月26日(日)

- ・オックスフォードのバスセンターからロンドン・ヒースロー空港へ
- ・タイ・バンコクを経由して翌日午後に成田国際空港へ到着

6. Photos

Cambridge



London



Edinburgh



Oxford



7. Reviews

1. 一平みずき

イギリスでのフィールドワークを通して、今まで学んできたイギリス文化を実際に体験するという貴重な経験をする事ができた。アングリア・ラスキン大学では、イギリス人からみたイギリス文化を学ぶことができ、日本にいた時とはまた違う角度で知れたことで、よりイギリスへの理解を深める事ができた。また、中国人の学生と交流したことにより、自分がいかに日本の文化や歴史について無知なのか痛感し、これからは海外の文化だけでなく自文化にも目を向けなければならないと強く感じた。

また、インタビュー調査をしたことは、このフィールドワークのなかでも一番の成果となった。日本で準備は万全にしていたものの、いざ話しかけようとするとなかなか勇気が出なかった。しかし勇気を出し、高齢の男性に話しかけると、とても優しく話してくれて、最後には「研究頑張って」と握手してくれた。この男性の言葉で、その後のインタビュー調査に前向きに取り組むことができ、最終的に充実したものにする事ができた。この経験は私にとって、研究の成果だけではなく、コミュニケーション力や度胸をつける事ができたとても大きな経験であり、この先も忘れることはないだろう。

今後は、イギリスでもテーマにしていたジェンダー問題について、フィールドワークの成果を活かし、より研究を進めていく。ランキングでは上位にいるイギリスでも、個人レベルで見ると未だに男女不平等があるとわかったため、どうすれば平等へ近づくのか今後の研究で明らかにしていきたい。

2. 岡あずさ

今回のフィールドワークで特に印象に残っているのはインタビュー調査である。イギリスに行く前は、自分の英語力に自信がなく、まともなインタビューができるとは正直思っていなかった。しかし、実際にイギリスに行ってインタビューを行うと、英語力というよりも話しかけ方や、話の流れなど、コミュニケーションの基礎的な部分の方が重要で、感覚を掴めば拙い英語でも快く答えてくれることが多いことに気がついた。もちろん英語力の不足を感じることも多々あったが、言語の壁を超えたコミュニケーションを楽しめたと、何よりイギリスの方達の優しさを実感できたのでインタビュー調査を行えて良かったと思う。これからまた英語をさらに勉強して、次にイギリスに行く時はもっとスムーズに話ができるようになっていたい。

また、日本にいて知っていても現地に行かないと全然分からないことが多いと感じた。階級による英語の発音が違うことは知っていたが、実際に現地で聞くと労働者階級の人たちの英語は全然聞き取れなくて驚いた。イギリスはハリー・ポッターが有名だが、本屋や

アパレルショップでもハリー・ポッターグッズが大量に売っていてここまでするかと思った。こういった、知識や想像と現実との大きささまざまな差異がいたるところで見つけられた。その国についてちゃんと知るには実際に行かないと分からないことがとても多いのだと実感させられた。今回の経験をこれから学習していく上でも参考にしていきたい。

3. 鈴木秀和

今回のイギリスフィールドワークでは、自分自身の目で見たり行動したりする大切さを学ぶことができたと感じる。

まず、イギリス式風景庭園に関する個人研究に関してだが、日本ではあまり庭園やそれを造った造園家に関する書物が少なかったので、研究があまり進まなかった。イギリスの庭園を実際に訪れることができるという非常に貴重な機会で、私が特に意識した点は以下の二つである。一つ目は研究対象にもなった「視点」である。書物や紙面からは読み取ることができない要素であり、これをオックスフォードのブレナム宮殿にて実際に検証できたことは今回の個人研究をより一層濃いものにできたと感じる。二つ目は「植生」である。日本庭園や普段の生活ではあまり目にすることのない樹木や植物、花を目にすることができた。イングランドとスコットランドの植生の違いに気づき、それを確かめるためにスコットランド・エジンバラではホリールードパークの山に登り、高山植物の植生を確かめたりもした。自分の目で見て確かめることができたことで、行動力を身につけただけでなく、自身の研究に必要なことを主体的に考えることを意識できた。

次に、この滞在中に異文化コミュニケーションの大切さやその難しさに痛感した。イギリスでは「アジア系」というだけでかなりコミュニケーションが困難になることがわかった。街頭でのインタビュー調査では最初はかなり断られることが多く、特にアジア系人種ということで嫌そうな顔をされることもあった。しかし、日数が経つにつれてどのような声のかけ方をすればいいかを考え、状況や人に応じて柔軟に対応できるようになり、最終的には目標の100人には達さなかったものの、94名のイギリス人から意見をいただくことができた。

一か月にも満たないわずかな期間ではあったが、以上のように、「ここでしか学べないこと」を貪欲に追求し、コミュニケーション力を発揮することで自身の研究の質を高めることができたと考える。

ありがとうございました。

4. 滝澤祐人

私にとって今回のFWが初めての海外だったので、案の定、戸惑うことや苦勞することは多かった。当たり前だが現地で日本語は通じず、全て英語で解決しなければならないので、拙い英語でも勇気を出して人に話しかけに行くことに様々な場面で苦勞した。しかし同時に得られたものも大きく、普段の自分では挑戦しようとしなかったような問題に、真正面から取り組むことができたと思う。

今でも強く印象に残っているが、語学研修中に出会った中国人の生徒たちとの交流は総じてとてもすばらしい経験となった。大学で初めて顔を合わせたときは、中国人の人数が多いのもあって、クラスでうまくやっていたらどうか不安だった。しかし、話してみると彼らはとてもフレンドリーで、日本の文化にも興味津々だった。皆とはすぐに打ち解け、ある日には中国人たちが泊まっている寮のキッチンで、全員で一緒に夕飯を作って同じ食卓で食べるという、本当に素敵な体験ができた。また、中国人たちの中でも特に仲良くなれた友達と、夢中で何時間も話し合った夜があった。彼は日本の歴史や文化について知りたがっていて、いくつも質問をくれたが、自分ではうまく説明できないこと、理解しきれていないことも多く、自国の歴史・文化への理解が不十分だと痛感した。これから外の世界へもっと踏み込んでいくのももちろんだが、自分たちが背負って生まれた歴史・文化について、もう一度勉強する必要があると思った。

5. 伏見美瑛

まず、私がこのフィールドワークを通して得たものとして大きかったのが、直接違う文化の人たちと話すことによって得られる情報である。この情報とはメディアや日本内の偏った考えに左右されない、直接的に出会い、話し、私自身が感じ経験した人柄の情報のことを指す。アンゲリア・ラスキン大学では中国人との交流があったが、私は中国人と話すこと自体が初めてであった。日本では中国人に対してあまりいい印象を抱かせるようなニュースはなかなか報道されないので私自身も偏見の混ざった目で中国人を見ていた節があった。しかし、実際に話してみて彼らがいかに友好的であるかを思い知り、中国文化についても理解を深めることができた。私はこの経験を通して、国内の偏った自国利益を考えた政治的戦略に有利な報道を鵜呑みにしないこと、どんなにその情報により悪い印象を抱いていたとしてもマイナスの感情を一旦は置いておいて関わり、知ろうとする精神を持つことが大切なのだと学んだ。

また、他にいい刺激となったのは日本人の感性と外国人の感性の違いである。日本人は空気を読み、場の雰囲気壊すくらいなら自分の意見を後回しにすることが美德とされているが、外国ではそうではない。空気を読む文化ではなく、発言する文化が形成されているイ

ギリスでは、意見を言わないことは意思がない、現状に満足していることと同意である。日本人が謙虚といわれる所以は場の雰囲気を読むことを外国人に期待しているからではないかと思う。その謙虚さは外国ではただの怠慢であるため、自分の意思があることを伝えるという作業を怠らないことが大切である。

6. 干野香月

本フィールドワークを通して実感したのは、事前調査と行動力の重要性であった。初めての海外渡航ということもあり、現地では何が必要か、丁寧に見極めてから臨むことが大切であった。ARUでは参加型のEQ授業を取り入れ、日本の座学中心授業との違いに驚かされた。授業を通して自分が何を学びたいか、また授業後には疑問が解消されたか等の振り返りの重要性を感じた。ARUの先生方は非常に易しく丁寧に質問に回答してくださった為、当初感じていた不安や緊張は次第に解消され、また同プログラムに参加していた中国人大学生達とも食事会をするなど交流を深める事ができ、自ら積極的に異文化に触れようとする姿勢が大切であると再認識した。言語、交通機関の使い方、買い物、あらゆる面で日本との違いを感じ驚かされた3週間であったが、嬉しかったのは、インタビュー中に日本文化に興味を持つイギリスの人々と出会えたことである。私のインタビューが終わると、日本の教育について質問した方や、自ら手招きして話しかけてくれた方、インタビューのお礼に渡した日本土産に喜んでくれた方、一緒に写真を撮って欲しいと言ってくれた家族連れの方達も居り、決して外国人に厳しい人ばかりではないと感じられた事がたいへん嬉しかった。また、分からない事を現地で訊ね、人とのつながりによって解決していく事で、本質的な異文化交流と行動力形成につながると感じた。

2018 年度
イギリス文学・文化論ゼミ
海外語学研修・フィールドワーク報告書

2018 年 3 月 31 日発行

監 修 加藤 千博
編 者 横浜市立大学 国際総合科学部 国際教養学系 国際文化コース 加藤ゼミ 3 年生
発行者 〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2 加藤ゼミ
電話 045-787-2256

※本報告書の印刷費用は学生教育費により助成をいただきました。